令和３年度

中英研会報

第 80 号

東 京 都 中 学 校 英 語 教 育 研 究 会

令和３年度 ── 行　動　目　標

グローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、国は小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実を図ろうとしており、社会全体も大きな期待を寄せている。平成 29 年３月に告示された学習指導要領においては、小学校第３学年から外国語活動を、第５学年から外国語科を導入することになり、それに伴い、中学校の外国語科も大きな変革が求められることになった。新しい学習指導要領の４月からの全面実施を踏まえ、東京都中学校英語教育研究会は、その期待と変革に対応するため、次のような行動目標のもと中学校英語教育のなお一層の充実・発展を目指して活動する。

１．組織の充実とその活性化を図る。

⑴ 都中英研の活動がより充実したものとなるよう、組織全体の見直しを継続的に行う。

⑵ 都中英研の各種事業により多くの教員や学校が参画できるようにし、その活性化を図る。特に、オンライン会議、オンライン研修等、各種事業でインターネットの積極的な活用も進める。

⑶ 都中英研の諸活動が一層活発に進められるよう、各地区の幹事と連携を密にする。

２．人材の発掘とその育成に努める。

⑴ 有能な人材を発掘し、リーダー層の育成を図るとともに、英語教員全体の資質向上を推進する。

⑵ 英語教員の資質向上を目指した研修事業を積極的に企画し遂行する。

⑶ 英語教員の育成と研修の充実を目的に、授業研究を一層活発に推進できるよう支援体制を強化する。

３．英語教育に関わる関係機関や関係団体との連携を強化する。

⑴ 第 32 回オリンピック競技大会（2020 ／東京）、東京 2020 パラリンピック競技大会の開催を受け、東京都教育委員会等とも連携しながら、東京方式少人数・習熟度別指導の充実を図り、英語が使える生徒を育てる。

⑵「東京都小学校外国語教育研究会」、「東京都高等学校英語教育研究会」との情報交換を密に行い、小・中・高等学校の学びを円滑に接続できるようにする。

４．調査・研究の充実を図る。

⑴ 学習指導要領の趣旨を踏まえながら、組織的な調査・研究を推進する。

⑵ 英語教育に関わる基礎的事項等についての調査活動を行う。

⑶ 英語教育に関わる今日的かつ実践的な課題についての研究活動を行う。特に小学校における外国語活動、外国語科との関連に留意した研究を充実するとともに、ＧＩＧＡスクール構想を受け生徒一人一台配付となる学習者用コンピュータを活用した授業について研究活動を行う。

⑷ 生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための取組、英語「話すこと」の評価に関する取組についての調査・研究を推進する。

５．英語教育に関わる各種情報の収集・発信を進める。

⑴ これまでの広報媒体を活用して、各種情報の発信を行う。

⑵ HP、SNS 等の活用を図り、それを通して各種情報の受信・発信を行う。

⑶ 各地区との連携を進め、情報の共有化にとどまらず相互協力による事業を推進する。

目　　次

●東京都の英語教育の充実と発展を目指して……刀根　武史…1
●学習評価について－評価のポイントと評価方法……太田　　洋…2
●東京都教育委員会の取組
「世界に羽ばたくグローバル人材の育成」を推進するために ……西貝　裕武…4
①生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための
授業力向上セミナーの実施……森田　　剛…5
②東京都中学校英語スピーキングテスト事業……堀内　　明…7
③「話すこと」トレーニングの活用について……関谷さやか…10
④多摩地域における体験型英語学習施設の開設……窪田　　香…13
●東京都教職員研修センターにおける
外国語（英語）に関する研修について……小野　昌徳…14
●「小・中学校を通じて、英語の授業で大切にしたいもの」……吉村　達之…16
●令和３年度・第 74 回英語学芸大会の運営にあたって ……平岡　栄一…18
実践研究
（１）英語学芸大会　Play の部　第１位
少人数のパワーが生んだ青井中の『走れ、メロス』……神戸　千恵…19
（２）英語学芸大会　Speakingの部 A　第１位
生徒の力を最大限に引き出すために……川越　智子…20
（３）研究部　令和２年度研究報告……前田　宏美…21
（４）第 45 回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会茨城大会
第５分科会（東京都代表発表）報告……遠藤　哲也…22
（５）一人一台端末を使った授業実践について……石井　　誠…23
●各部報告
・総務部報告……板垣　　繁…26
・事業部報告……横山　達也…27
・調査部報告……荒川　高広…28
・研究部報告……橋本　晋作…29
・プロジェクトチーム部報告……佐藤　順一…30
・出版部報告……今本由美子…30
●研究大会報告
・大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会（大阪市・堺市大会）板垣　　繁…31
・全国英語教育研究団体連合会総会（全英連 山形大会）……難波　浩明…32
・関東甲信地区中学校英語教育研究会連絡協議会（茨城大会）……佐藤ひろみ…33
●各地区の活動状況……35
●中英研事業報告……61
●中英研会則……63
●役員名簿……65
●あとがき……69

東京都の英語教育の充実と発展を目指して

会　長　　刀根　武史
（東京都中学校英語教育研究会）

昨年度来、学校現場において新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐための様々な取組が継続される中、多くの先生方がこれまでのご経験を基に、様々な工夫をしながら授業をされておりますことに、まず深く敬意を表したいと思います。

さて、東京都中学校英語教育研究会の事業ですが、昨年度より一堂に会する形はできるだけ避けて、文書開催やオンラインを活用した取組を積極的に進めています。

まず、年度当初の定期総会は本年度も文書開催とさせていただき、各議案の承認も各地区の幹事の皆様にその賛否をお届けいただく形で決議しました。毎月の役員会も回数を減らし、オンラインでの開催を中心に進めてまいりました。

昨年度は中止とせざるを得ませんでした夏季休業中の研究部や調査部の研修会につきましては、本年度はオンラインでの開催ができ、多くの皆様にご参加をいただくことができました。オンラインでの開催とはなりましたが、皆様に学びの機会をご提供できましたこと、本当に良かったです。

また、例年12月に行っております英語学芸大会は「かめありリリオホール」を会場に開催準備を進めておりましたが、残念ながら新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、本年度もSpeakingの部、Playの部、Performanceの部の3部門で皆様から映像データをお送りいただき、そのデータを審査するという形での実施といたしました。昨年度に引き続き、本年度もこれまでの集合型での開催ではなかなか参加が難しかった島しょ地域からのご参加も複数いただき、東京都全域から広くご参加が得られましたことは、大変喜ばしいことでありました。

この他、11月にオンライン開催となりました関東甲信地区中学校英語教育研究協議会茨城大会では、第５分科会で「パフォーマンス評価を伝え合う力の育成に結びつける指導～相手とのやり取りを深化させるために必要な要素の段階的指導の工夫～」で発表をいたしました。次年度の群馬大会では第１分科会で「生徒の自主的自律的な学びを生み出す指導と評価の工夫（主体的に学習に取り組む態度の育成）」を研究主題に発表を担当することとなっています。引き続き、関東甲信地区の８県（群馬県、茨城県、長野県、栃木県、埼玉県、千葉県、神奈川県、山梨県）の各英語教育研究団体との交流も進めてまいります。全国英語教育研究団体連合会、大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会、東京都小学校外国語教育研究会とも引き続き緊密な連携を図ってまいります。

結びに、今後、東京都立高等学校入学者選抜において、令和５年度入学者選抜（令和４年度実施）から中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）の結果を活用し、英語４技能のうち「話すこと」の能力がみられることとなったり、令和４年度中の開業を目指し多摩地域における体験型英語学習施設が立川にできたりと、英語に関する大きな動きもあります。

新しい学習指導要領の全面実施への対応を含め、英語教育に関する研究や研修会の充実を引き続き図り、今進められている英語に関する様々な動きについても最新の情報もご提供させていただきながら、東京都の英語教育の充実・発展に今後とも寄与してまいります。

東京都教育委員会をはじめ、本会の事業に多大なるご尽力を賜りました皆様に心より感謝を申し上げますとともに、今後とも東京都中学校英語教育研究会の活動へのご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

学習評価について―評価のポイントと評価方法

東京家政大学 教授　太田　洋

学習指導要領では、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の３つの評価の観点が示された。各観点のポイントは何か、どうやって評価したらいいのかについて述べたい。

１．知識・技能

聞くこと･読むことは､｢内容を捉える｣がキーワードになる。聞いたり､読んだりして、その内容を捉えることができるかを評価することになる。内容を捉えるためには、文構造を理解する文法力、単語の知識を活用することが必要になる。つまり、ただ文法や単語を知っているという知識ではなく、聞いたり、読んだりする内容を捉えるために技能として活用できるかどうかがポイントになる。例えば、ある町の紹介文を読み、何を紹介しているか、何があるか、何ができるかなどの情報を正しく読み取ることができるかで評価することができる。また文法知識、例えばthere isの知識を活用し、何を紹介しているかを読み取ることができるかを評価することも可能である。設問形式はQAやTFなどを使うことができる。

話すこと・書くことは、「正確さ」「場面、状況」がキーワードになる。文法や単語を知識として理解しているだけでなく、場面・状況に応じて正しく使えるかどうかがポイントになる。例えば、eatの過去形がateだと知っている知識を、夏休みの思い出をALTに伝える場面で、I ate…と正しく使うことができるかなどである。この際、評価する際は、「～（言語材料）を使って表現しましょう」と教師が提示することがない状況において、その言語材料を用いて話したり、書いたりすることができるかを評価することに留意したい。

ここでの「正確さ」とは、コミュニケーションに支障がないかどうかという点からも考えることも大切である。文部科学省国立教育政策研究所教職課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（以下、『参考資料』）では事例１p.52の「おおむね満足できる」「b」の例として「誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる」という基準と生徒の発話例を参照してほしい。

２．思考・判断・表現

聞くこと・読むことは、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて」「必要な情報、概要、要点」がキーワードになる。日常では聞いたり、読んだりする場合、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、どんな聞き方、読み方をするのかが違ってくる。その聞き方、読み方が「必要な情報、概要、要点」になる。「必要な情報」とは、聞き手、読み手にとっての必要な情報であり、「概要」は聞いたこと、読んだことの大まかな内容である。また「要点」は話し手、書き手が一番伝えたいことである。例えば､海外の友達が夏休みに日本に遊びに来ることを伝えるメールを読む際、目的や場面、状況により捉えたい内容が変わり、読み方が変わってくる。もし、読み手は迎えに行きたいので、いつのフライトで来るのかが知りたい場合（これが知りたい情報になる）はその情報（フライトと到着日時､ゲート番号など）を読み取ることになる。また海外の友達がメールで何が一番伝えたいのかを読み取るのは、要点の読み取りになる。またメールに書かれた話題を知りたい場合（これが概要になる）は、５Ｗ１Ｈに注

目しながら読み取ることになる。
　コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、3つのどの聞き方、読み方（必要な情報、概要、要点）をするのかが、知識・理解と思考・判断・表現の違いになる。
　話すこと･書くことは､｢適切さ｣､｢コミュニケーションを行う目的や場面､状況｣がキーワードになる。つまりコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて適切に話したり、書いたりできるかを見る。ここでの適切さは、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた適切さかどうかということを意味する。例えば「ALTのことをよりよく知るために、ALTとおしゃべりをしよう」という活動の場合、ALTのことをよりよく知るためにはどのようなやりとりが適切であろうか。もしALTが日本食が好きなことが分かったら、そのことだけで終わらせることなく、さらによく知るために何の日本食が好きかなど、フォローアップの質問をすることがこの活動の目的に対しての適切さということになる。ちなみにこの活動では、生徒がALTに質問することになるので、疑問文を正確に使うことができるかという評価規準で知識・技能を測ることもできる。
　思考･判断･表現と知識･技能との違いは「正確さ」と「適切さ」だけでなく、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、「何を表現するか」（内容）と「どのように表現するか」（言語）を生徒自身が自分で決めることもポイントになる。先ほどの活動例でいえば、ALTに尋ねる内容とそのための言語を生徒が自分で考え、何を尋ねるか、どの言い方を使って尋ねるかを判断し、そして表現する機会を与えることが、まさに思考・判断・表現を測るための活動のポイントになる。

３．主体的に学習に取り組む態度

　主体的に学習に取り組む態度は、「粘り強さ」、「自己調整」がキーワードになる。ここでのポイントは生徒の「粘り強さ」を見る場面である。「粘り強さ」は、単に授業中の継続的な行動や積極的な発言を行う場面でなく、コミュニケーションを図ろうとする場面、つまりコミュニケーション活動をしている場面で評価することに注意する必要がある。話すこと、書くことでは、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、事実や自分の考え、気持ちなどを表現するコミュニケーション活動で見取る。聞くこと、読むことでは、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、必要な情報や概要、要点を捉えようとしている状況を見取ることである。つまりただ粘り強くすればいいのではなく、コミュニケーションの目的を達成するために粘り強く取り組むかどうかの態度を見取ることが大切になる。例えば、「ALTのことをよりよく知るためにおしゃべりをしよう」という言語活動の場合、少しでもよりよく知るために、質問しようする態度を見ることができたかで評価をすることができる。
　さらに粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整（自己調整）しようとする面を評価することもポイントとなる。「自己調整」とは目標を設定し、そのための工夫を考え、行動し、振り返ることである。例えば、「ALTのことをよりよく知るためにおしゃべりをしよう」という言動活動では、よりよく知るという目標達成のために例えば友達が話したことでいいものを真似をするという工夫がある。
「主体的に学習に取り組む態度」は上記のように相手への配慮（相手を意識し)､コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、理解したり、表現したりするので、思考・判断・表現と基本的には一体的に評価することになる。

　評価は授業で行ってきたことを、どのくらいできるようになっているかということを知るためのものである。授業で言語活動を行い、生徒の様子をモニターし、できること、できないことを掴み、授業を改善する。そして中間、期末テストなどのペーパーテスト、パフォーマンステストで評価をする。指導と評価は行ったり来たりが大切になる。

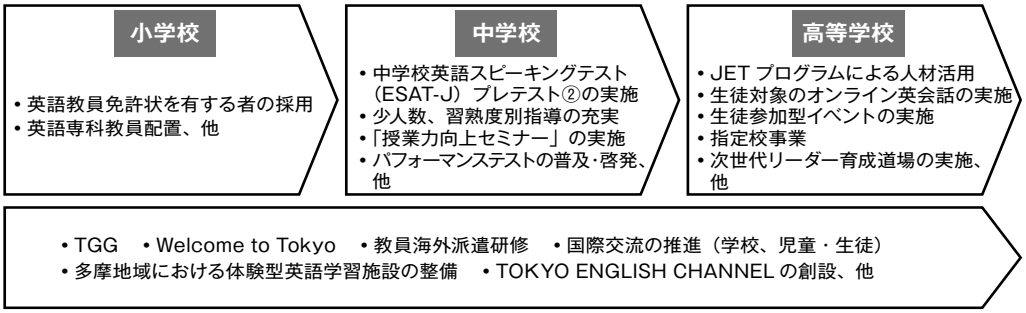
令和３年度　東京都教育委員会の取組

「世界に羽ばたくグローバル人材の育成」を推進するために

東京都教育庁指導部国際教育推進担当課長　西貝　裕武

１　東京都教育委員会の取組の概要

東京都教育委員会では、平成30年２月に「東京グローバル人材育成計画'20（Tokyo Global STAGE'20）」を策定し、グローバルに活躍する人材の育成に取り組んできた。令和３年度は、３つの観点（「使える英語力の育成」、「豊かな国際感覚の醸成」、「日本人としての自覚と誇りの涵養」）から、小・中・高等学校において以下の取組を展開している。



令和３年３月に策定した東京都教育施策大綱では、東京都における教育の在り方を示す「東京型教育モデル」で実践する特に重要な事項の一つとして、「世界に羽ばたくグローバル人材の育成」を提示している。そして、「外国語を当たり前に使いこなすとともに、我が国の伝統文化等に立脚した広い視野や多様な人々と協働する力をもち、豊かな国際感覚を身に付けて、世界をけん引していくことができる人材を育成する必要がある」としている。中学校においては、高等学校との円滑な接続を図り、義務教育で身に付けた英語力をさらに伸ばすこと、つまり、小・中・高等学校における一貫した英語教育を実現していくことが一層求められている。

２　豊かなコミュニケーションを目指して

令和３年度は、中学校では学習指導要領が全面実施となり、「目的や場面、状況」を設定した言語活動がより一層重視され、教室を生徒が自分の考えや気持ちを伝え合うコミュニケーションの場にすることが求められている。

Ken:　If I could speak English better, I would make more friends from many other countries.

Yumi: So, you have been studying English since this morning.

今回の改訂で扱う語数と言語材料が増え、生徒が自分の気持ちを適切に、そして豊かに表現できるようになった。今日、感染症や環境問題など我々を取り巻く課題は多い。だれもがグローバル人材として、それらの課題について考え、国内外関わらず周りの人と協働することが求められる時代となった。生徒がそのため必要な英語力を身に付けることができるよう、授業における豊かなコミュニケーションを期待している。

次頁より、東京都教育委員会の取組を紹介する。

東京都教育委員会の取組①（義務教育指導課）

生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための授業力向上セミナーの実施

東京都教育庁指導部義務教育指導課　統括指導主事　森田　剛

義務教育指導課においては、今年度も昨年度に引き続き、都内公立中学校、義務教育学校（後期課程）、中等教育学校（前期課程）に在籍する英語科教員（希望者）及び区市町村教育委員会の外国語教育担当指導主事等（希望者）を対象として、「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための授業力向上セミナー」を実施することとした。

実施に当たっては、新型コロナウイルス感染症の状況から、昨年度に引き続き、通常の授業公開を避けるとともに、できる限り多くの先生に受講いただくようにするため、内容を授業映像の視聴及び授業者による解説とした。今年度は、全３回の実施を予定しており、12月末日現在、第１回を実施したところである。以下にその概要について紹介する。

１　本セミナー実施の目的

中学校学習指導要領（平成29年告示）の趣旨を踏まえた外国語科における指導方法及び評価方法の改善を図る。

２　各回の概要等

［第１回］

テーマ：「読むこと」の領域における「指導と評価の一体化」

日　時：令和３年12月21日（火）午後２時から午後４時45分まで

会　場：東京都教職員研修センター　地下２階　視聴覚ホール

内　容：(1) 授業公開（授業映像の視聴及び授業者による解説）

授業者：福生市立福生第二中学校　寺沢　陽子　指導教諭

(2) 指導・講評

文部科学省初等中等教育局 教育課程課 情報教育・外国語教育課

山田　誠志　教科調査官

［第２回］

テーマ：「話すこと」の領域における「指導と評価の一体化」

日　時：令和４年１月27日（木）午後２時から午後４時45分まで

会　場：東京都教職員研修センター　111研修室

内　容：(1) 授業公開（授業映像の視聴及び授業者による解説）

授業者：葛飾区立立石中学校　河野　光志　主幹教諭

(2) 指導・講評

文部科学省初等中等教育局 教育課程課 情報教育・外国語教育課

山田　誠志　教科調査官

［第３回］

テーマ：「書くこと」の領域における「指導と評価の一体化」

日　時：令和４年２月７日（月）午後２時から午後４時45分まで

会　場：東京都教職員研修センター　地下２階　視聴覚ホール
内　容：(1) 授業公開（授業映像の視聴及び授業者による解説）
授業者：中野区立中野東中学校　井上　智絵　主任教諭
(2) 演習
「書くこと」の学習評価に関する事例研究及び学習評価に関する参加者相互の意見交換

※　第２回、第３回については、次年度に延期

３　本セミナー受講者の主な感想等（第１回）

- 生徒に読むことの必然性をもたせることの大切さを再確認することができた。
- 学習指導要領の改訂により教科書の分量が増え、どのように指導すべきか課題に感じていたので、これまでの指導を振り返り考え直すよい機会となった。
- 生徒に意欲をもって主体的に英文を読ませる方法について、多くのヒントを得ることができた。校内の他の先生方にも今日学んだことを伝えたい。
- 理論だけでなく実践例があったので、分かりやすかった。明日からの授業に生かしていきたい。
- 授業映像を見ながら授業者の解説を聞いたり、指導・講評では他県を含め、多くの事例を聞いたりすることができたので、大変勉強になった。今後の授業改善に生かしたい。

４　指導資料について

令和３年３月に指導資料リーフレット「小学校と中学校の接続を意識した外国語の指導の充実に向けて」を作成し、都内全公立小・中学校等に配布した。内容は以下のとおりである。

１　小・中学校学習指導要領（平成29年告示）外国語科における改訂の要点
２　学習指導要領の趣旨を踏まえた指導のポイント
３　各学校段階の接続（小・中連携）を通じた指導の充実
４　指導と評価の一体化に向けて

また、令和４年３月末には、指導と評価の一体化に向けた取組に関する事例集を作成し、都内全公立小・中学校に配布する予定である。

これらの指導資料や、「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための指導資料」（令和２年１月）を、小・中の連携を意識した指導の充実に向けた取組や、指導と評価の一体化に向けた授業改善のために、各学校において活用していただければ幸いである。

５　最後に

本セミナーの開催に当たり、御協力をいただいた、東京都中学校英語教育研究会 会長 刀根校長先生、文部科学省初等中等教育局 教育課程課 情報教育・外国語教育課 教科調査官 山田先生、授業者の皆様、授業撮影でお世話になった校長先生及び当該中学校の先生方をはじめ、本セミナーへの参加を希望していただいた全ての先生方に改めてお礼申し上げます。

次年度も新型コロナウイルス感染症の感染状況等の状況を踏まえるとともに、今年度のアンケート結果を分析し、先生方のニーズに少しでも沿った形で実施できるよう、検討を進めてまいります。

東京都教育委員会の取組②（指導企画課　国際教育推進担当）

東京都中学校英語スピーキングテスト事業

東京都教育庁指導部　主任指導主事　堀内　明

指導企画課国際教育推進担当では、令和３年度からスピーキングテストの名称をESAT-J（「English Speaking Achievement Test for Junior High School Students」※読み方は「イーサット・ジェイ」）とした。令和３年度は、引き続き出題内容・実施方法等を確認するため、都内公立中学校第３学年の全生徒を対象とした「確認プレテスト②」を実施した。以下に令和３年度の実施内容等について紹介する。

１　スピーキングテストの内容及び実施方式

■ 中学校学習指導要領における「話すこと」に基づいた内容を出題

＜令和３年度　出題のねらい＞

Part	ねらい	出題数	評価の観点※		
			ア	イ	ウ
A	英文を読み上げる形式の問題で英語音声の特徴を踏まえ音読ができる力をみる。	2			✓
B	図示された情報を読み取り、それに関する質問を聞き取った上で、適切に応答する力や、図示された情報をもとに「質問する」、「考えや意図を伝える」、「相手の行動を促す」など、やり取りする力をみる。	4	✓		
C	日常的な出来事について、話の流れを踏まえて相手に伝わるように状況を説明する力をみる。	1	✓	✓	✓
D	身近なテーマに関して聞いたことについて、自分の意見とその意見を支える理由を伝える力をみる。	1	✓	✓	✓

※評価の観点

ア コミュニケーションの達成度（２段階）
・コミュニケーションの目的の成立

イ 言語使用（５段階）
・語彙、文構造、文法の適切さ及び正しさ
・内容の適切さ（一貫性・論理構成）

ウ 音声（４段階）
・発音・強勢・イントネーション・区切り

■ タブレット端末、イヤホンマイク、防音用イヤーマフを使用し、解答音声を録音

タブレット端末

イヤホンマイク

イヤーマフ

２　結果返却

今後の学習への見通しがもてるように、受験者一人一人に次の(1)～(3)の内容を表示したスコアレポートを返却し、各実施校には結果及び結果分析資料を送付した。

(1) 受験者の話す力に関するスコア（上限100）及び段階別（６段階）評価

■ SCORE
解答内容について観点別の採点基準により採点した結果を、統計的に処理し、総合的な結果として数値（上限は100、下限は0）で表している。

■ 段階別（６段階）評価
スコアに基づくA～Fの６段階評価を表している。

■ 参考CEFR レベル
取得したESAT-J GRADE に基づく「話すこと」の力の目安としての参考CEFRレベルを表している。

(2) 英語を使ってできること

■ ESAT-J can-do statements
判定されたESAT-J GRADE における英語「話すこと」において、できることを示す。

＜ESAT-J GRADE 各レベルのCan-Do Statements＞

ESAT-J GRADE	得点域	can-do statements
A	80 ～ 100	身近な話題について、相手と意見交換ができる。 まとまりのある内容を話したり、自分の考えや理由、具体例を話したりすることができる。 順序立てて分かりやすく相手に伝えることができる。
B	65 ～ 79	相手のことについて質問したり、自分のことについて質問に答えたりすることができる。 身近な話題について自分の考えと理由を具体的に話すことができる。 文を組立てながら複数の文を使って話すことができる。
C	50 ～ 64	相手に話しかけたり、自分のことについて質問に答えたり、自分の考えと理由を話したりすることができる。 文を組立てながら話すことができる。
D	35 ～ 49	自分のことについて質問に答えたり、自分の考えを話すことができる。 特有の場面で用いられる定型表現や簡単な語句などを用いて話すことができる。
E	1 ～ 34	自分のことについて質問に答えたり、話したりすることができる。 特有の場面で用いられる定型表現や基本単語を用いて話すことができる。
F	0	英語で話そうとしていても伝わらないことが多い。

(3) 受験者の英語をレベルアップさせるための学習アドバイス

「話すこと」の力を更に伸ばすためのポイントや身に付けておくとよい力、それらの力を身に付けるための具体的な練習内容を記載している。

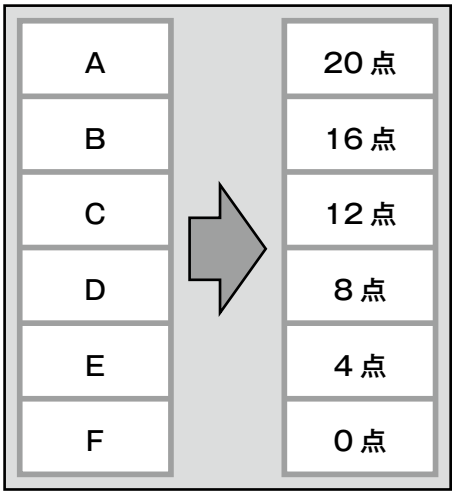
３　令和４年度以降の予定

４　入学者選抜における結果の活用

東京都立高等学校入学者選抜では、令和５年度入学者選抜（令和４年度実施）から東京都中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）の結果を活用し、英語４技能のうち「話すこと」の能力をみることとする。

都立高等学校では、ＡからＦまでの６段階で提出された評価を、２０点満点（※）の点数として取り扱う。

※正式決定は、「令和５年度東京都立高等学校入学者選抜実施要綱」に定める予定



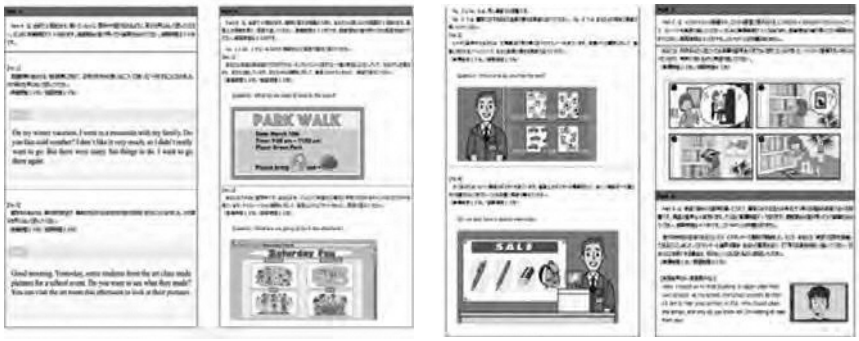
※東京都教育委員会ホームページ（令和３年９月24日）報道発表資料
URL：https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/press/press_release/2021/release20210924_03.html

５　テスト問題の活用

東京都教育委員会外国語教育に関するＨＰ「国際教育・東京ポータル」には、本事業のページを開設し、以下の内容を掲載している。テスト問題を授業の中においてもぜひ活用し、授業における「話すこと」の指導の参考にしていただきたい。

■ 過去問題（令和３年度・令和２年度・令和元年度）、問題動画（解答例あり）、問題動画（解答例なし）、問題スクリプト、解答例、採点基準

＜令和３年度問題スクリプト＞



URL：http://tokyo-portal-edu.metro.tokyo.lg.jp/speaking-test.html

※このテスト問題及びそれに付随する採点基準・解答例の著作権は、試験実施団体に帰属します。

東京都教育委員会の取組③（指導企画課　国際教育推進担当）

「話すこと」トレーニングの活用について

東京都教育庁指導部指導企画課　統括指導主事　関谷　さやか

「話すこと」の力を付ける映像教材について御紹介する。英語学習のための映像資料「話すこと」トレーニングは、令和２年２月に各中学校に配布された冊子「中学校英語『話すこと』に関する能力育成のための映像資料・指導資料」及び付属のDVD３枚組の中に収録されている。今年度、幅広い活用ができるように、デジタル化し公開した。

以下に、その具体的な内容について紹介する。

１　特徴

■ 端末があれば､いつでもどこでも「話すこと」の練習に取り組ませることができる。

■ Stage 1からStage 3まで学習者に合ったレベルを選ぶことができる。
※Stageは難易度の目安であり、使用する学年を示すものではない。

■ 授業の進捗や生徒の実態を踏まえ、テーマや内容を選択して活用することができる。

■ 練習の後には、それぞれ解答音声が収録されているので、すぐに確認ができる。

■ 使用する言語材料が提示されない状況で、「目的や場面、状況」に応じて、事実や自分の考えなどを話したり、「イラストなど、客観的な事実を描写」させたり、自分の意見を話させる時には「根拠と併せて伝える」といった練習をすることができる。

２　全体構成

「話すこと」トレーニングの構成は、以下のとおりである。

出題形式	内容
ア　テキストを読み上げる	書かれた内容を表現するよう声に出して読む。
イ　質問に答える・質問する	テーマに沿って、事実や考えを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする。
ウ　状況を描写・説明する	テーマに沿って、事実や考えを整理し、簡単な語句や文を用いて、まとまりのある内容を話す。
エ　考えや意見を述べる	テーマに沿って、事実や考えを整理し、簡単な語句や文を用いて、まとまりのある内容を話す。

３　内容

各パートのトピック及び実際の内容の一部を紹介する。

(1) テキストを読み上げる

ある場面での英文が表示され、準備時間の後、その英文を音読する。練習の後には、解答音声（音読例）が流れる。(準備時間30秒、解答時間30秒)

Stage 1	Stage 2	Stage 3
サッカー部を紹介	留学生へ	お世話になった先生へ
今日の予定	体育館使用不可のお知らせ	遠足
パソコンルームの使い方	図書館の利用方法	スマートフォンの使用ルール
日本の弁当	寿司の食べ方	駅弁
東京のある商店街	私の好きな落語	東京のバス

（例）Stage 1　サッカー部を紹介

あなたは今、留学中です。
クラスでサッカー部を紹介することになりました。
次の英文を声に出して読んでください。

Hello, everyone! We are from the soccer club. We have thirty members. We practice every Monday, Wednesday, and Friday. Do you like soccer? Come and practice with us!

＜実際の映像より＞

(2) 質問に答える・質問する

○「質問に答える」

ある場面が設定されていて、登場人物になったつもりで質問に答える。練習の後には、解答例（音声・文字）が表示される。（準備時間10秒、解答時間10秒）

（例）Stage 1　第１回　「質問に答える」ケンとトムの会話～週末の予定について

（指示）あなたは13歳で、東京の学校に通う中学１年生です。
テニス部に入り、熱心に活動しています。
学校から帰る途中、留学生から話しかけられます。
留学生はあなたの持っているラケットバッグを見て興味をもったようです。
あなたは、塾があるため今日はこのまま帰宅しますが、日曜日の予定は空いています。

＜実際の映像より＞

＜質問＞

Tom: Hi, how are you?
Ken: (　　)
Tom: Great. I'm Tom.
　　What's your name?
Ken: (　　)
Tom: Are you a student?
Ken: (　　)
Tom: How old are you?
Ken: (　　)
Tom: Do you go to Asahi Junior
　　High School?
Ken: (　　)

○「質問する」

質問する内容がインタビューシートにまとめられているので、映像に従って質問する。練習の後には、解答例（音声・文字）が表示される。（準備時間10秒、解答時間10秒）

（例）Stage 1　質問パート

（指示）あなたは新入生です。英語部の体験入部に来ました。上級生に次のことを聞いてください。インタビューシートにそって質問してください。
※実際には「英語の先生」のイラストがある。

インタビューシート
「英語の先生について」
□名前
□年齢
□出身
□日本語を話すか
□英語部の顧問なのか

＜質問例＞

Q1: What's her name?
Q2: How old is she?
Q3: Where is she from?
Q4: Does she speak Japanese?
Q5: Is she a teacher of the English club?

(3) 状況を描写・説明する

画面に提示されるイラストや表を説明する。練習の後には、解答例（音声・文字）が表示される。（準備時間30秒、解答時間40秒）

Stage 1	Stage 2	Stage 3
週末にしたこと	昨日の出来事	昨日の出来事
東京タワー	年間学校行事	私の住む街
学校での生活	学校の建物	日本の伝統的な季節行事
部屋の中にあるもの	学校までの行き方	教室の中のクラスメート

（例）Stage 1　週末にしたこと

（指示）あなたは、「週末にしたこと」を留学生の友達に話すことになりました。「イラストに登場する男の子」になったつもりで、相手に伝わるように英語で話してください。

＜実際の映像より＞

解答例

I went to a zoo with my friends.
First, we saw pandas, lions, and tigers.
Then we ate ice cream.
We enjoyed the zoo very much.

(4) 考えや意見を述べる

英語の質問に対して、自分の考えや意見を述べる。練習の後には、解答例（音声・文字）が表示される。（準備時間１分、解答時間40秒）

Stage 1	Stage 2	Stage 3
第１回 （自己紹介）	第１回 （将来やりたいこと）	第１回 （好きな学校行事）
第２回 （好きな教科）	第２回 （給食と弁当のどちらが好き？）	第２回 （健康のためにすること）
		第３回 （継続していること）

（例）Stage 1　第１回（自己紹介）

（指示）英語の授業で自己紹介をすることになりました。好きなことやできることなどを含め、英語で伝わるように話してください。

質問　Can you introduce yourself?
解答例　I'm Shinjuku Hanako. I'm a junior high school student. I like dogs very much and have two dogs. I like sports very much.
I can play badminton very well.

冒頭でお伝えしたように、「話すこと」トレーニングはYouTube「東京都国際教育チャンネル」で配信している。いわゆる一人一台端末を用いたり、家庭学習の教材とするなどして活用することができる。さまざまな場面でぜひ活用していただきたい。

YouTube「東京都国際教育チャンネル」のURL
https://www.youtube.com/channel/UCAUl84cO4_7j4mceH7Ih2SQ/playlists

東京都教育委員会の取組④　（指導企画課　国際教育事業担当）

多摩地域における体験型英語学習施設の開設

東京都教育庁指導部　主任指導主事　窪田　香

東京都教育委員会では、平成30年９月に民間事業者と共に青海に開設した東京都英語村TOKYO GLOBAL GATEWAY（TGG）において、学校からの移動距離の長さを主な要因として多摩地域の学校の利用が限定的であることを踏まえ、同様の体験型英語学習施設を多摩地域にも整備することとした。TGGの特長を活かしながら、多摩地域の特色も踏まえ、児童・生徒が英語を使用する楽しさや必要性を体感でき、英語学習の意欲向上のきっかけ作りとなる環境を整備していく。

(1) 開設場所

GREEN SPRINGS（Ｅ１棟４階及びＷ２棟３階）
立川市緑町３番１
※JR中央線立川駅より徒歩８分、多摩都市モノレール立川北駅より徒歩４分

(2) コンセプト

○　英語を使う楽しさを体験し、英語学習の意欲を高める「英語を使う」「英語で学ぶ」プログラム
○　デジタルコンテンツを活用した非日常の近未来を感じる施設
○　多くのイングリッシュスピーカーと直接対話
○　多摩の魅力を発見し、世界に発信するきっかけとする体験

(3) プログラム内容

○　10年後の東京・多摩をイメージした近未来を感じるデザインの施設で、英語で様々なコミュニケーションができるシーンを用意
○　グループ（原則８名）に１名のイングリッシュスピーカーがつき、児童・生徒の発話を促す。

(4) 主な利用対象者

小学生・中学生を中心（学校団体での利用）

国際教育事業担当では、今後、令和５年１月の開業に向け、具体的に準備を進めていく。来年度前半には、具体的な内容を学校へ案内する予定なので、多摩地区の学校に限らず、多くの学校にぜひご利用いただきたい。

東京都教職員研修センターにおける
外国語（英語）に関する研修について

東京都教職員研修センター　統括指導主事　小野　昌徳

東京都教職員研修センターでは、都内の公立中学校（都立中学校、中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校を含む）の英語科の教員を対象に、指導力向上と英語力向上の二本立てで専門性向上研修を実施しています。令和３年度に計画・実施した講座を以下のとおり紹介します。

１　指導力向上を目指した研修

(1) 文部科学省教科調査官を講師とした研修

①英語Ⅰ（中基礎）

「中学校外国語科の授業づくり【基礎】
－学習指導要領改訂のポイントを踏まえた授業展開、指導法、学習評価－」
中学校学習指導要領の目標及び内容等を理解し、授業展開や指導法、学習評価の基礎・基本を学びます。
〔講師〕文部科学省　初等中等教育局　教科調査官　山田　誠志　先生

②英語Ⅱ（小・中応用）

「外国語科の授業づくり【応用】
－小学校と中学校の学びのつながりを意識した外国語科の指導－」
小学校から中学校までの系統的な指導の在り方について学び、小学校及び中学校の外国語科の指導力を高めます。
〔講師〕文部科学省　初等中等教育局　視学官　直山　木綿子　先生

③英語Ⅲ（中発展）

「中学校外国語科の授業づくり【発展】
－「話すこと」におけるパフォーマンス評価－」
「話すこと」の領域において設定する目標の実現を目指した指導と評価の一体化を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導法を学び、校内で英語教育を推進する力を高めます。
〔講師〕文部科学省　初等中等教育局　教科調査官　山田　誠志　先生

(2) 英語教育の専門家を講師とした研修

英語Ⅱ（中・高応用）

「外国語科の授業づくり【応用】
－中学校・高等学校 生徒の４技能を高める指導法－」

五つの領域の言語活動を通して、生徒の４技能を養い、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導法や授業づくりについて学び、中学校・高等学校英語教員の指導力を高めます。
〔講師〕実用英語推進機構　代表理事　安河内　哲也　先生

２　英語力向上を目指した研修

外部委託者所属の外国人講師等による研修

①「英語力ＵＰ！ 集中講座
【英検準１級・TOEIC730点程度】
－「聞く力」「読む力」「話す力」「書く力」を高めよう－」
外国人講師等の英語による講義・演習を通して、コミュニケーションに必要な英語力を高めます。

②「英語力ＵＰ！ 集中講座
【英検１級・TOEIC860点程度】
－「聞く力」「読む力」「話す力」「書く力」を高めよう－
外国人講師等の英語による講義・演習を通して、コミュニケーションに必要な英語力を高めます。

３　令和４年度の専門性向上研修について

令和４年度の専門性向上研修内容は、令和４年４月以降、東京都教職員研修センターHPに掲載される「研修案内」又は「マイ・キャリア・ノート」を御覧ください。

「小・中学校を通じて、英語の授業で大切にしたいもの」
～新しい学習指導要領の小・中全面実施を踏まえて～

三鷹の森学園三鷹市立高山小学校　校長　吉村　達之

令和３年度から新学習指導要領が中学校でも全面実施となり、小・中そろって、新しい学習指導要領､それに基づいた検定教科書の下での指導が開始となった。中学校でも、評価の観点をはじめ、その内容、コンセプトが大きく変わり、小学校同様に、現場では戸惑いも見られる。

昨年度のこの会報に、「今、小・中学校の英語教育に求められるもの　～小学校高学年における英語教育の教科化を踏まえて～」と題して、一文を寄せさせていただいた。その中で、小・中接続の重要性についても触れたが、学習指導要領が小・中ともに新しいものとなった今年度は、その重要性を実践の場で生かしていくうえで条件が整ったといって良い。

○　中学校での英語学習は、小学校で学んだことがベースとなる

私がまだ、英語科教員として中学校の教壇に立っていたころ、小学校では英語の授業らしきものは一切行われていなかった。中学校に入学してくる生徒の多くは初めて英語を学ぶことになり、中学校で頑張りたいこととして部活動と英語をあげていたことを思い出す。翌年、自分の学校に入ってくる６年生の児童を対象に、小学校で英語の出前授業をすると、児童が興味津々に取り組んでいたのは懐かしい思い出である。

しかし、今の中学生、とりわけこれから中学校に入学してくる生徒は、かなりの時間、小学校で英語を学習してきている。小学校３年生からの４年間で合計210時間以上、これに加えて多くの市区町村では、小学校１・２年生（低学年）でも余剰時間等を活用して、少なからず外国語活動の時間を設定している（年間20～70時間程度）ことから、多ければ300時間近く英語を学んできているのである。

中学校で英語を教える皆さんは、小学校の３・４年（中学年）で使用することとなっている“Let’s Try!”や、自分の学校に入ってくる生徒が５・６年（高学年）で使用してきた検定教科書などをよく読んで、既習事項を理解し、授業研究をされているだろうか。小学校で使用している教科書をざっと見ていただくだけでもわかるが、乱暴な言い方をすれば、中学校で扱う基本的なキーセンテンスは、ほぼ小学校段階で網羅されているといって良い。

新しい教科書になってからも中学校で研究授業を拝見する機会があるが、従前の指導方法に従った展開で、小学校での既習事項も顧みられず、一から指導をする流れであることが多い。厳しい言い方をお許しいただければ、これでは「先生、そんなことは、小学校でさんざんやってきましたよ……。」と授業を受ける生徒から言われても仕方がない。

中学校から見ると、必ずしも専門性があるとは限らない小学校の担任が教えてきた英語の指導内容をあらためて確認しておきたいということかもしれない。また、異なる小学校から入学してくる生徒の英語の力がアンバランスであったり、すでに生徒の英語力やモチベーションに大きな差があったりで、指導がしにくいという意見も分かる。しかし、だからこそ、これまで生徒が小学校で積み上げて来た英語の学習内容を理解し､「みんな、小学校○年生で、・・・という言い方を習ったよね？」と始めるだけで、生徒は中学校での英語をぐっと身近なものに感じる。そして､「ああ、やった、やった！」と思い出せば、一見難しく感じる中学校の英語学習に、もっと興味・関心をもたせることができる。このように、生徒が小学校から学んできた英語の延長線上に中学校での英語

学習があると実感できれば、小学校では触れない文法事項や発音の仕組み、英語での表現が広がる新出事項など、難解と感じる学習内容に対しても、「なるほど、そうなのか！」と深まりとして捉えることができる。それが、英語学習に対するモチベーションになるのである。

○ 「必然性」と「リアル感」を授業で実現する工夫をする

コミュニケーション活動では、自分が本当に伝えたいこと、本当に相手から聞きたいことなどをやり取りすることが基本である。「○○ごっこ」ではいけない。たまに授業で見かける「とりあえず、あなたは○○ということにして……。」という指示は、ナンセンスであり、「とりあえず」言わされる児童や生徒はたまったものではない。もしそれが本人にとって全く見当違いのものであったら、どれだけ違和感をもつだろう。

そうはいっても、英語でコミュニケーションをする「必然性」と「リアル感」を日常の授業で作り出すのは非常に難しい。そこで、考え出した一つの工夫として「ALT集中配置方式」を紹介したい。これは私の前任校と現任校の小学校で実施しているもので、１授業１ALTという、これまでのALTの運用方法を費用はそのままに変えた一例である。

普段の授業は担任が教科書やデジタル教材（タブレット）を駆使しながら単独で行う。その授業が数回続いた後の授業に集中配置日を設定、ALTが６～７名程度同時に教室に入り、ALT１名が児童５～６人を担当する。担任単独の授業で学習してきたことを、児童はALTを相手に「実践」する。そこには「ALTの先生に英語で伝えたい！」という英語で伝える「必然性」とその内容には「リアル感」が生じ、児童はその日に向けて学習に励む。例えば、４月当初は自己紹介やちょっとした質問の受け答えを担任単独の授業で学習し、集中配置日にそれを駆使して英語によるコミュニケーションを楽しむ。複数いるＡＬＴは45分の授業内で数回ローテーションし、児童はいろいろな国から来た（国による習慣の違いや英語のなまりなどに触れることも含めて）ALTと会話をする。さらに、友達とALTとの会話をシャワーのように聞き取ることになり、それを自分の英語表現に応用することも多い。また、毎回ALTが変わることから自己紹介を毎回繰り返すことになり、実際の会話でまず必要となる、英語による自己紹介に習熟するというメリットもある。ALTも、従前のＴＴのときよりも生き生きと楽しそうに指導に当たっている。派遣会社との連携により実現した「ALT集中配置方式」は、年間配置予算を増やすことなく、ALT本来の役割を現在の条件下で最も生かせる方法と考える。個々の児童の英語の発話量や聴き取る量が増えるだけでなく、児童の「英語で伝えたい!」という必然性に直接つながり、５年生対象に実施するTOKYO GLOBAL GATEWAY（TGG）での英語体験学習にも活用している。このやり方は、担任が外国語の授業を単独で行うことになる小学校に比較すると、専門性のある英語教員が英語を教える中学校なら問題なく実現できると思われる。

○ 最後に

２回にわたり、小・中学校の英語教育について、現場サイドから具体例と今後の展望を述べさせていただいた。新型コロナウイルスの影響で、発声をはじめ、多くの事柄に制限がかかる中、様々な工夫をしながら日々の授業を行っている小･中学校の先生方に、あらためて心からエールを送りたい。子どもたちは、小学校、中学校で学んだ英語をその後も長く学びながら運用もしていくことになる。子どもたちのために、ともに頑張りましょう。

【全国英語教育団体連合会常任理事、全国小学校英語教育実践研究会東京大会実行委員長、東京都小学校外国語教育研究会（TEFLEA）会長、東京都中学校英語教育研究会小･中連携担当役員、小学校外国語科検定教科書 ONE WORLD Smiles（教育出版）執筆者】

令和３年度・第７４回英語学芸大会の運営にあたって

副会長　事業部担当　　葛飾区立亀有中学校　校長　平岡　栄一

１　今年度の実施方式について

東京都英語学芸大会は東京都中学校英語教育研究会の看板行事の一つで、毎年12月に開催され、今年度は第74回を迎えました。この歴史ある大会は、例年、地区大会で優勝した、または推薦された代表生徒や代表校が参加して競われてきました。

しかし、昨年度、新型コロナウイルス感染症により、都内中学校の体育館に400～500名が集合する方式は、困難であると判断し、一方で、生徒のために何かできないか、安全な方法はないか、と考えていたところ、インターネットを利用して動画を提出するビデオ審査方式に思い至りました。

今年度においては､感染が収束する見込みのもと､JR亀有駅前の「かめありリリオホール」を予約していました。同ホールは「肉声が聴きやすく、観るに適したホール」をコンセプトにつくられた、スピーチや演劇、パフォーマンス等の効果が最も発揮されやすい、素晴らしいホールです。予約は多くの区市町村で冬季休業日の初日となる令和３年12月26日（日）にしていました。（令和４年12月26日も予約済です）また、並行してビデオ審査方式の２本立てで準備をしていましたが、令和３年９月の感染状況を踏まえ、ビデオ審査方式に一本化しました。

２　工夫したところ、配慮したこと

今回の運営にあたり、主に以下について配慮しました。

項目	内容	配慮したこと、意図したこと
開催方式	ビデオ審査による	物理的な距離に関係なく参加できる。時間のある時に準備できる。感染状況に関わらず実施できる。
応募期間	30日間とる、期間後も受領する	各校が方式に不慣れである。各自治体のセキュリティ等の関係で応募に手間がかかる可能性あり。
参加申込	各校最大4エントリーまで地区推薦を不要にする	地区大会が実施されないため､参加できないということを防ぐため。気楽に参加してほしい。楽しんでほしい。
Speakingの部	Speaking Bも表彰する	語学力をさらに高め、皆と協力して国際親善や国際貢献に力を発揮してほしい。
Playの部	制限時間5分、編集可	提出データサイズを小さくする。練習時間を短縮して感染リスクを下げる。編集すれば5分でもまとまりのある作品となる。
Performanceの部	新規に設置、順位なし	英語を使って皆で楽しみ、学習意欲やコミュニケーション能力を高めてもらいたい。
プラットホーム	Google Formsを使用する	提出作品の取りまとめが自動的に完了する。スマートフォンやタブレット端末からも応募が可能である。
ホームページ	Google Suiteを使用する	内容の更新が容易である。事業部員がリモートで複数名で同時に作業できる。
審査	オンラインと集合審査併用	作品数が多いため、第１段階はオンライン審査、第２段階では審査員が同一会場に集まり、同時に動画を見て審査をした。
表彰	表彰状や記念品は郵送する	表彰状や記念品は郵送する、一部デジタル賞状をデータ送付する。

３　皆様への感謝、今後の課題

応募については、Speakingの部Aが72、同Bが８、Playが17、Performanceが12で、合計では109のエントリーをいただきました。各作品の完成度は大変高く、様々な工夫、練習や努力の積み重ね、映像や舞台の特性を生かした演出、感染予防に配慮しながらの各先生方の丁寧で温かいご指導に深く感謝いたします。

「英語学芸大会」は、次年度以降も計画します。集合開催、オンラインそれぞれの利点を併せ、素晴らしい作品を多くの中学生、保護者や指導者にお見せできたらとも思います。皆様におかれましては、生徒の英語運用能力の向上、課題に立ち向かう姿勢や、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成のため、引き続き何卒よろしくお願い申し上げます。

少人数のパワーが生んだ青井中の『走れ、メロス』

足立区立青井中学校　主任教諭　神戸　千恵

青井中は、全校で５クラス、132人の小規模校である。現在ある部活動は、活動できる最低人数の生徒を集めるのに皆必死で、赴任当初、英語部等の新しい部活動を創設することは叶わなかった。しかし、区の連合行事には青井中として何らかの形で参加したい、という英語科２人の希望が通り、区の連合英語学芸会の際には有志を募って参加できることになった。しかし、令和２年度の区大会は感染拡大の影響を受けて中止、令和３年度は年度当初は開催される予定だったが、夏休み中の感染者急増を受けて再び中止となった。

今年こそは開催されると思い、早くから区の連合英語学芸会に向けて練習を開始していたため、２年連続の中止に、皆落胆の色を隠せなかった。

しかし、そんな中、都大会開催の朗報が入る。ビデオ審査に切り替わったが、それでも大会に参加できることに変わりはない。作品は５分以内ということで大幅にシーンやセリフをカットし、全くセリフが無くなってしまった生徒もいたが、役者全員が出演するシーンが残っていたため、常に劇作りの楽しさや、一体感を感じながら練習を進めることができた。

そして、いよいよ撮影の日を迎える。動画を撮った日は、奇しくも区大会が行われるはずだった10月28日木曜日。生徒にそのことを伝え、今日は本当だったら、区の大きな舞台でこの『Run, Melos, run!!』を上演するはずだった。スポットライトを浴びて演技をするはずだった。今までの練習はその日のためにしてきたこと、この劇を通して多くの人に感動を与えることができたはず。だから、大きな舞台に立ったつもりで、仲間を信じて演技をして欲しいと伝えた。

撮影が始まる前、衣装に着替え、メイクをした後、全員で大きな輪を作り、目をつぶって深呼吸をした。一気に緊張感が高まった。

たとえ、動画撮影で何度も撮り直しができるといっても、私は一発撮りをしよう、と生徒に伝えた。私は失敗が許されない、劇の緊張感が好きだからだ。生徒にもその緊張感をもって欲しかった。また、失敗があっても常に仲間でカバーするように指導をしてきた。本番の誰かのミスを仲間がカバーし合えるのも劇の醍醐味の一つである。撮影が始まる時、いい風が吹いてきた。感染対策で窓を開けていた多目的室のカーテンが揺れる。メロスの帰りを待つ静まり返った刑場に静かに揺れるカーテン。カーテンさえもが演技をしているようだった。撮影をしている手にも力がこもる。

“Light off!! ” たった５分のはずなのに、物語すべてを見た気持ちになった。生徒の顔にはやり切った達成感があふれていた。

英語に触れる機会を増やし、英語に親しんで欲しい、という英語科の思いから始まったこの劇作りは、都大会１位という大きな花を添えて、生徒たちに大きな自信と喜びと思い出を残してくれた。たくさんの我慢を強いられてきた３年生に最高のプレゼントだった。

最後に、今回このような厳しい状況下で、大会を開催して下さった大会本部の皆様に心から感謝申し上げます。

生徒の力を最大限に引き出すために

北区立飛鳥中学校　教諭　川越　智子

夏休み直前に英語スピーチオーディションを実施し、そこで初めて赤津周さんと会った。今回の出場者である。彼の英語力には驚いた。既に独学で英語を習得している。非の打ちどころのない発音と抑揚。大学入試レベルの語彙力。伝えたいことは英語で思いのままに表現できる。そして何より、英語への“passion”に溢れていた。

スピーチのテーマは、“Solving Climate Change Beyond Science”。赤津さんは国際問題について小学生の頃から関心をもち、特に気候変動に関しては国内外の書籍やインターネットを通して多くの情報を得ていた。哲学にも興味があり、図書室では哲学書を読み漁り、自宅ではTEDで世界各国の哲学者のスピーチを視聴している。そこで、スピーチ冒頭部に哲学的な“crime”という単語を用いた。ここには、「スピーチを聞いて下さる全ての方々に気候変動は自分事だと気付いて欲しい」という彼の願いが込められている。「なぜ気候変動なの？」私は何度も尋ねてみた。バングラデシュ人を夫にもつ私としては、気候変動よりも貧困や人種差別、宗教への偏見、医療格差、戦争などの方が重大かつ早急に解決すべき問題に思えた。しかし赤津さんは、「このまま気候変動が進行すると、全ての国際問題が今よりさらに深刻化し、悪夢のような未来を次世代に渡すことになる」と主張する。そして「現代を生きる我々は、気候変動を解決できるラスト・ジェネレーションなのだ」と。８月にオンラインで原稿についての打ち合わせを行い、９月から英語で作成を開始した。情報量の多い赤津さんの原稿は、添削すればするほど科学雑誌の記事のようになってしまう。彼の人となりを感じられるスピーチにすべく、ALTと頭を悩ませた。そこで、「気候変動について初めて知る人にも分かるように書こう」と提案し、理解しやすく、相手の心に残る内容となるよう心がけた。11月５日に開催された北区連合学芸会への出場に向け、本番前にALTを複数名派遣してもらい、昼休みや放課後にアドバイスをもらった。当日は観客の前で、自分らしい発表をすることができた。また、校内では11月26日の「総合的な学習の時間」で、同テーマについて全校生徒によるディスカッションを行った。時間が20分間と長かったため、内容に厚みをもたせながらスライドを用意し、１年生にも分かるよう工夫した。生徒から出た日本語の意見をその場で要約・翻訳し、自分の主張まで英語でもっていく手腕には脱帽した。そして、同時期に本大会へのエントリーを行った。ビデオ審査のため原稿を２分間バージョンに短縮し、シンプルかつメッセージ性の強い発表を心がけた。赤津さんは４ヶ月間で計３パターンの発表原稿を準備し、それぞれの本番を楽しんでいた。本大会の結果を受け、私はもう一度質問した。「なぜ気候変動をテーマにしたの？」彼は、「人が好きだからです。」と答えた。私は赤津周さんがグローバル・リーダーとなることを確信している。

今年度４月、私は育児休業を経て約２年ぶりに仕事復帰した。知っている生徒は誰もおらず、校舎はリノベーション中のため引っ越したばかりである。生徒にも教員にもタブレット端末が配布され、年子を育てながら日々の生活を送るので精一杯であった。そのような私の心に、赤津さんの“passion”が真っ直ぐに流れ込んできた。「全力を注がなければ。」英語教員としての使命感を強く感じた。しかし、私一人の指導では到底このような結果には辿り着けなかった。今回のスピーチ完成・発表にあたり、ご理解とご協力を賜った多くの方々に、心より感謝を申し上げたい。今回の経験を糧とし、今後も英語教員として邁進していく。

研究部　令和２年度研究報告

副部長　前田　宏美（港区立港南中学校）

例年２月に研究発表会を開催しているが、新型コロナウイルス感染拡大により、令和２年度については開催中止となったため、ホームページにて報告した。

１．令和元年度までの研究のあらまし

平成30年度は「研究部基本語い1200」と「語い指導再考」の２つのテーマについて、前者は基本語いの選定を行い、後者は新出語彙の導入方法を検討した。

令和元年度は、前年度の研究をさらに深め、「研究部基本語い1200」に生徒同士のやり取りで使用される語いがどのくらいあてはまるかを調査した。また、「語い指導再考」については、Nation（2001）の4 strandsに基づいて指導法を開発した。以上の研究内容は関東甲信越地区中学校英語教育協議会東京大会（令和元年11月15日）で発表した。

令和２年度は、生徒同士のやり取りにおける「英語で言えなかった単語」や感想のアンケート調査を行った。また、「語い指導再考」においては、前年度に開発した語い指導法の検証を行った。

２．令和２年度の研究

全国英語教育研究団体連合会（全英連）東京大会（新型コロナウイルス感染拡大により中止）の発表も踏まえて、より広く充実した研究を目指して、語いリストグループと語い指導法グループの２つの分科会に分かれて、調査を進めた。

３．今後の課題

３年間にわたり、２つの分科会に分かれて、生徒に身に付けさせるべき語いの選定と生徒が新出語に出会ったときにいかに深く学ばせるかという指導法について調査した。これらのテーマは、今後も探求すべき課題と思われる。

令和３年度から新しい学習指導要領の下の指導が始まる。小学校で学習する単語が600～700語、中学校で学習する単語が1600～1800語となる。研究部ではこれらを踏まえた新しい語彙リストの作成、受容語彙・発信語彙の選別、授業における指導法等について、研究、実践を進めていきたい。

４．参考文献

Nation, I. S. P. (2001). Learning vocabulary in another language. Cambridge University Press.

５．研究部のホームページについて

研究部のホームページから、本研究で使われている「教科書語いデータ」および、これまでの研究部研究冊子「語いと英語教育」がダウンロードできる。

研究部ホームページ　http://www.eigo.org/kenkyu

第45回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会茨城大会
第５分科会（東京都代表発表）報告

葛飾区立水元中学校　校長　遠藤　哲也

第45回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会茨城大会における東京都代表の発表について、次のとおり報告する。

１　大会概要

(1) 開 催 日　令和３年11月12日（金）

(2) 開催方法　オンライン

(3) 分科会発表（第５分科会）

①発表者　　葛飾区立立石中学校　主幹教諭　河野　光志

②主　題　　パフォーマンス評価を伝え合う力の育成に結びつける指導
～相手とのやり取りを深化させるために必要な要素の段階的指導の工夫～

③指導助言者　教育庁指導部義務教育指導課指導主事　早川　裕之　氏

(4) 特　記

本大会は、新型コロナウイルス感染症蔓延予防により、オンライン開催となった。各分科会発表においては、事前に録画した発表及び指導助言を動画視聴する形式で発表された。

２　発表内容　※一部抜粋

(1) 学習到達目標の設定

領域ごとに３年間の学習到達目標を設定し、そのためには各学年においてどの段階まで到達すればよいかを「CAN-DOリスト」形式でそれぞれ設定する。単元ごとの学習到達目標、いくつかの単元を統合した学習到達目標を設定し、それぞれの段階で領域ごとの目標をどの程度達成できていればよいかを示した評価基準を基に数値目標として生徒に提示する。

(2) 学習到達度確認および振り返り

①学習到達目標の意識付け

「Study Guide」と名付けた学習振り返りシートを活用し、生徒と学習到達目標を共有する。いくつかの単元を統合した学習到達目標を「ステージゴール」、単元ごとの学習到達目標を「単元ゴール」、各単元内のセクションごとの学習到達目標を「スモールゴール」と名付け、学習の進行とともに生徒に提示し、「Study Guide」内に記入させていく。

②学習が進んだそれぞれの段階で振り返りをさせ、学習到達度の確認および今後の学習に向けた個人の課題等を意識させ、学習改善を図るための自己調整について考えさせる。

③パフォーマンステストごとに振り返りをさせ、自己調整を図るきっかけにさせる。パフォーマンステストに向けて、生徒自身の努力の何が効果的だったのか、何が足りなかったかを考えさせる。

④学期ごとに領域別の振り返りをさせ、次学期に自己調整を図るきっかけにさせる。領域ごとに振り返りをさせることで、生徒の具体的な弱点に気付かせ、課題解決に向けた授業に臨む姿勢や家庭学習の改善を促すことをねらいとして行う。

(3) パフォーマンステストのゴール（ルーブリック評価）から逆算した指導

①ある程度まとまった量を発話させるための指導

ア　プラス１の指導（感想・意見・具体例等を１文付け足す）。

言語材料を導入した際や質問に答える際は、発言に１文足して発話させるようにする。１年次から感想や意見を言うための「It's 形容詞」「I think」の形や、「I like」の連発を脱却させるための「My favorite _____ is」や「I'm a fan of」といった、どのような発言にも付け足しやすい表現を習慣化させていく。

イ　あるテーマや質問に対して１分間モノローグで話し続けさせる。

プラス１のための表現を１つずつ積み重ねていくと、１年の後半には１分間モノローグに挑戦し、１分間で10語以上は話せるような段階に到達する。１分間モノローグに取り組んだ後は話したことをそのまま書かせて、知識の整理や言いたかったけど言えなかった表現などを調べさせながら語彙の増強も図っていく。

ウ　あるテーマや質問に対して簡単なメモを取らせてから話させる。

話したい内容を短時間で整理させ、論理的に順序立てて説明する力を鍛えるためにはメモの活用が有効である。話したい内容のキーワードだけを思いつくままに書き足しつなげていくマッピングの手法を使わせる。

②相手とのやり取りを継続させるための指導

ア　相手の発話に相づちを打たせる。

イ　相手の発話に関する質問をさせる。

(4) 研究の成果と課題

①成果

「話すこと［やり取り］」の言語活動の質が上がった。生徒にとってゴールが明確になり、自身の課題も明らかになることで、常に課題意識をもって言語活動に取り組めるようになった。また、生徒の振り返りから、課題克服のための学習への自己調整もより具体的に行えるようになったことがわかった。授業者側の指導も同様に、学習到達目標に向かってスモールステップを踏ませる一貫したものとなった。

②課題

振り返り内容や頻度を精査する必要がある。振り返りをさせる回数が多いため、毎回同じようなことを簡単に書いて終わってしまい、振り返りをする意味がなくなってしまっている生徒がいる。今後はどのタイミングでどの程度の振り返りをさせるべきか精査する必要がある。どうやったら生徒に振り返ったこと意識させ、どのような場面で生かせるのかをフィードバックしながら、振り返りを有意義なものにしていきたい。

一人一台端末を使った授業実践について

渋谷区立松濤中学校　教諭　　石井　誠

はじめに

英語の時間に「聞く、話す、読む、書く、考える」といった活動を生徒が行う中で、その根幹である「主体的・意欲的に学習に取り組む」姿勢を定着させることが３年間の中学校での英語学習を成功させる要因のひとつであると考える。その主体性を高める手段のひとつとして一人一台端末を使用した授業実践を行った。以下はその指導事例となる。

一人一台端末を使った指導事例

１　「ALTに日本の夏を紹介しよう」（第１学年）

＜一人一台端末活用のポイント＞

- 撮影した動画を提出させることで、自分の話し方を客観的に観察し、繰り返し練習することができる。
- 友達の作品を繰り返し視聴することで、聞く力を高めることができる。
- 人前で発表する不安を軽減することができる。
- 伝える相手をALTとすることで、聞き手を意識した話し方を工夫する必要がある。

＜指導手順＞

手順	内　　容
1	モデルとなるプレゼンテーションを見せ、撮影までの日程、評価規準、生徒に達成してほしい目標を明確にする。
2	教科書の既習の文から、生徒が日本の夏を紹介するときに使うことができそうな文を探させる。教科書の日本の夏休みを扱ったページを参照させる。
3	下書きをさせ、教師の添削が終わったら個人→ペア→グループで話す練習をする。
4	家庭で動画を撮影する。撮影した動画を指定のフォルダにアップロードする。
5	提出した動画を授業内で視聴する。簡単な評価票を使ってスピーチの良かった点を相互評価させる。
6	動画をALTに見てもらい、感想動画を撮影してもらう。
7	ALTからの感想動画をクラスで視聴する。

２ 「海外に住んでいる友達とお互いの学校を紹介しよう」（第１学年）

＜一人一台端末活用のポイント＞

- 現実の英語使用場面に近い状況を意識して練習することができる。
- 相手に伝わるように話し方を工夫する機会をもつことができる。
- 聞き返したり、言い直しを求めたりする機会をもつことができる。

＜指導手順＞

手順	内　　容
1	教師やALT、先輩が行った「学校紹介」等、会話モデルを見せる。モデルは教科書の文を用いて示したり、オリジナルのものを見せたりしてもよい。
2	誰との会話か、どんなことを紹介するのか生徒に考えさせる。評価規準、生徒に達成してほしい目標を明確にする。
3	「紹介したい内容」と「相手校に質問してみたいこと」を３～４人のグループで考えさせる。下書きをさせ、教師の添削が終わったらペア→グループで話す練習をする。
4	＜交流当日＞ ・グループ毎に部屋（もしくは時間）を設定し、オンライン会議システム等を使用して相手校と接続する。 ・10～15分で自己紹介、学校紹介、質問のやり取りを行う。
5	簡単な評価票を使って交流の良かった点や反省点を自己評価させる。

成果と課題

成　　果	課　　題
• 録画した課題を何度も繰り返し確認することで、生徒が自分自身で発音を矯正することができる。 • 生徒の学習成果を記録に残すことができる。 • 従来の教員端末を使用したクラス対クラスの交流よりも生徒一人当たりの英語使用の場面が増える。 • 現実の英語使用場面に近い状況が設定できるので、聞き返したり、言い換えを要求したりする機会がある。	• 相手校との調整など、準備に時間がかかる。 • 「発表」の形式をとると、発表者にその場で質問することができない。 • 接続環境によっては、画像と音声の間に時間差があり、コミュニケーションがとりづらくなる。 • 相手が英語のレベルを調整してくれるとは限らない。

おわりに

この指導事例の他にも、生徒から出た面白い表現や共通の間違いなどをオンライン会議ツール上に投稿することで､学年に所属する生徒全員に共有することができる。また、分からないことがあったときに質問を投稿したり、生徒同士が意見を交わしたりできる環境としても活用する。生徒の作品をオンラインで提供することもできるので、相互評価や学びの振り返りに役立てることができ、更なる効果的な活用方法が期待される。

総務部報告

（総務部長　　板垣　繁）

1　定期総会

都中英研各部と連絡を取り合い、総会資料を作成した。

５月11日、各地区幹事宛に定期総会資料を配布し、６月４日までにファクシミリにて承認の確認を取った。

また、今年度の各地区幹事名簿を作成した。

2　第45回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会茨城大会第１回理事研修会　※オンライン

６月25日、今年度大会のオンラインによる開催方法や分科会のもち方等について協議した。

その後、東京都の発表者及び助言指導者（都教委指導主事）と連絡を取り、発表に向け準備を進めた。

3　全英連との連携

７月に「第71回全国英語教育研究大会（全英連山形大会）」、９月に「第２回中英ネットワークショップ」の開催案内を、各地区幹事を通して会員に周知した。

4　第60回大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会大阪市・堺市合同大会　※オンライン

９月17日、各都市のICT機器の有効な活用方法について情報交換を行った。（別ページに詳細）

5　第45回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会茨城大会第２回理事研修会　※オンライン

11月11日、翌日に控えた本大会の最終確認を行った。

（本大会については別ページに詳細）

6　令和３年度東京都教職員研修センター教育課題研究発表会

本発表会の教育実践発表に向けたポスターを制作し、提出した。

7　役員会

４月26日　※オンライン
- 令和３年度定期総会について
- 今年度の活動について他

７月14日　※オンライン
- 今年度の活動について
- 都中英研HPについて
- 各部の事業報告他

10月４日　※オンライン
- 英語学芸大会の運営について
- 各部の事業報告他

12月６日　※オンライン
- 英語学芸大会のまとめ
- 中英研会報について
- 各部の事業報告他

２月22日　※オンライン
- 令和３年度の活動のまとめ
- 令和４年度事業計画について他

事業部報告

（事業部長　　横山　達也）

1　第74回　東京都中学校英語学芸大会

今年度の英語学芸大会は、当初は集合開催方式とビデオ審査方式の２つの大会を予定したが、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、ビデオ審査方式に一本化した。

（1）Speakingの部（制限時間２分）
（2）Play　　の部（制限時間５分）
（3）Performanceの部（制限時間２分）

３つの部門について、今回は２つの大会を１つにまとめた経緯から各校４つまでエントリー可能とした。（Playは１つのみ）

応募締切後、一次審査を経て、決勝審査を行った。決勝審査員は、元世田谷区立梅丘中学校校長の中村貴美子氏、玉川大学教授の日臺滋之氏、日本英語検定協会のMr. Ashely Davies氏に依頼した。

Speakingの部ではAB部門でそれぞれ８名、Playの部では８団体を入賞とし、順位を付けた。Performanceの部については、順位付けを行わなかった。

結　果：

Speakingの部 A（応募数72）

１位　Shu Akatsu
　　北区立飛鳥中学校
　　Solving Climate Change Beyond Science

２位　Aya Bettink
　　目黒区立第八中学校
　　The Woman Whom I Respect

３位　Eitaro Shimokawa
　　青ヶ島村立青ヶ島中学校
　　My Second Hometown

Speakingの部 B（応募数８）

１位　Ashida Aika
　　目黒区立東山中学校
　　Question it

２位　Kato Ran
　　世田谷区立瀬田中学校
　　The Unrealized Power of Words

２位　Sara Yamaguchi
　　町田市立鶴川中学校
　　Does the world need to replace fossil fuels with renewable energy?

※２位が同点で２名のため３位はなし。

Playの部　（応募数17）

１位　足立区立青井中学校
　　Run, Melos, Run

２位　八丈町立富士中学校
　　Annoying Lunch Boxes

３位　板橋区立上板橋第三中学校
　　GORILLAS

Performanceの部　（応募数12）

全体で109のエントリーをいただいた。

作品は完成度が高いものが大変多く、練習も十分に行われ、思わず画面に引き込まれた。また、画面で演ずるための効果的な方法が一段と向上していた。Performanceの部の発想や構成も素晴らしく、今後は表彰も考えたい。

演じた生徒、ご指導やご支援、ご協力をいただいた全ての方々に深く感謝する。

2　第36回 授業力アップ研修会

日　時：令和４年２月10日（木）
会　場：町田市立鶴川中学校
テーマ：ICTの活用により授業効果を高める
授業者：遠藤　貴裕　教諭
発表者：事業部員

本研修会は感染予防のため、オンラインにて実施する。ICTの実践的な活用方法を探るため、研究授業を行い、また他の事業部員も含めて先進的な活用事例、効果的な活用事例を多く発表し、参加者からも効果的な実践例を紹介してもらう。無償で使用できるものを中心に取り上げる。

調査部報告

（調査部長　　荒川　高広）

1　コミュニケーションテストについて

今年度は旧来のコミュニケーションテストの実施を休止し、新学習指導要領の完全実施に伴う新たなコミュニケーションテスト作成の準備の期間とした。そのため事項２で詳述する研修等を行った。

2　オンライン夏季ワークショップ

日時：令和３年８月20日（金）

内容：

第１部
講義：「新学習指導要領を踏まえた『コミュニカティブテスト』づくり」
講師：本多　敏幸　先生
（千代田区立九段中等教育学校講師）
第２部
テストづくりワークショップ（調査部員が作成した問題の発表と講師助言）
講師：本多　敏幸　先生
（千代田区立九段中等教育学校講師）
工藤　洋路　先生
（玉川大学文学部英語教育学科教授）

第１部は、新学習指導要領の観点に基づいたテスト作りについて押さえておくべきポイントを、本多先生より御講義いただいた。第２部は調査部員が今年度１学期に各校で実施した考査問題について、本多先生、工藤先生より評価観点に見合っているか、また改善するにはどうしたら良いか御助言をいただいた。

実際の考査問題を題材にすることで、「この力を測りたいときはどう問えば良いか」を具体的に考えることができた。（参加者は一般参加が28名、調査部員が15名）

＜講師の先生方の御助言より＞

○「思考力・判断力・表現力」を測る問題では、場面・状況の設定が重要。そのため、リード文でいかに現実的にありそうなタスクを設定するかが大事。

○テキストタイプと出題者が「テストで測ろうとする力」には相性がある。例えば、ポスターという素材なら「必要な情報」の読み取り、メールという素材なら発信者の依頼に返信するという想定で相手の発信内容の「要点」を読み取る問題が作れる。

○「対話文」を聞く問題で出題するなら、その必然性をどうするか。（例：学校新聞の記事作成のために、録音されたインタビューを書き起こしているなど）

○書く問題でも、場面･状況の設定が重要。特に、「誰」に向けて「どんな目的」で書く文章かを明確にする。

○書く問題の採点基準の項目で「適切さ」は思考・判断・表現に関わる項目。一方で「正確さ」は知識･技能に関わる項目。また、与えられた条件・状況から生徒がどのような文章を書くのが「適切」か、教師が想定して模範解答例を複数用意しておくと良い。

○あらためて指導と評価の一体化を再確認。そのテスト問題を出す前に授業でどんな活動をしていたか、授業で育んだ力が見て取れるテストであるかを自問しよう。

○技能統合型の例として、メールをもらって返信するというのは１つのパターンとして有効。ただし技能統合型の弱点として、生徒が書けなかった場合の原因の特定が「読めなかったから」なのか「読めていたが書けなかった」なのか、見つけづらい。そのため、読む力も測りたいのでれば、書く前に内容理解度を測る問題を設ける。逆に、書く力に重きを置いて測りたいのであれば、読ませる内容は極力簡単にする。

3　今後に向けて

今年度調査部員が各校で作成・実施した考査問題を情報共有しながら、新しい観点に即したコミュニケーションテスト作りを進めていきたい。

研究部報告

（研究副部長　　橋本　晋作）

1　研究主題と概要

研究テーマ：語いと英語教育（44）
研究部中学校推奨語い 1800
研究部小学校推奨語い 700

新学習指導要領において、中学校で学習する単語は1600語～1800語、小学校では600～700語となり、新学習指導要領に準拠した検定教科書を用いて指導するにあたり、研究テーマを上記の通り設定し、中学校･小学校共に推奨語いリストを作成した。これを基に、圧倒的に増えた語彙数の中から確実に定着させておきたい推奨語いを確認することで、先生方が単語の指導において、指導の軽重を判断し、効率的に語い指導をする助けとしたい。

2　研究部会・研究部ワークショップ

昨年度に引き続き、コロナ禍で対面での部会は開催できなかったが、本年度からは月１回のオンラインミーティングにより部会を行った。また、昨年度行えなかった夏季休業期間における研究部ワークショップをオンラインにより開催することができた。

第１回 ８月３日(火)品川区立鈴ヶ森中学校

①「スモールステップで行うやり取りの指導の工夫」
橋本　晋作
（渋谷区立松濤中学校）

②「学年別による帯活動のその効果 ~北原延晃先生の活動の追試~」
能美　真弓
（荒川区立第三中学校）

③「１つの単元における指導から評価まで」~タブレットPCの活用を含めて~
太田　裕也
（品川区立鈴ケ森中学校）

第２回 ８月５日(木)都立小石川中等教育学校

①「５ラウンド指導法 Part１」
森沢　俊彦
（町田市立真光寺中学校）

②「チャットからディベートへ」
高杉　達也
（都立小石川中等教育学校）

③「リテリング~スタートから応用も含めて~」
前田　宏美
（港区立港南中学校）

3　研究発表ついて

２月21日（月）に玉川大学の日臺滋之教授を指導講師にお迎えし、オンラインにて開催した。まず、能美真弓部員（荒川区立第三中学校）と岡大佑部員（足立区立江南中学校)が今年度の研究について発表した。その後、日臺先生から今年度の研究について指導助言をいただき､「コミュニケーション活動に必要なphrase listの構築―活動後の振り返りと授業でのフィードバックについての提言」というテーマでご講演いただいた。

なお、研究冊子「語いと英語教育　44」についてはウェブにて発行予定である。

プロジェクトチーム部報告

（プロジェクトチーム部長　佐藤　順一）

これまでPT部では新学習指導要領全面実施にあたり、CAN-DOリストについての研究活動を生かしつつ主体的・対話的で深い学びの視点から「指導と評価の一体化」について研究に取り組んできた。具体的な学習指導の方法や評価の進め方などについて、国立教育施策研究所「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」にある単元に応じた学習評価についての事例を参考とした。例年の活動では夏期休業中にワークショップの形式で研修会を実施し、講師の先生より研究テーマに沿ったご講義をいただいているが、今年度は実施することはできなかった。一方、PT部員による研究授業については昨年度中止としたが、今年度は下記の通り実施する予定である。コロナウイルス感染状況を鑑み部内研究授業とするが、今年度の研究については来年度のワークショップ等において発表する方向で考えている。

第一回　部会
日　時：令和３年８月20日（金）
　　Zoomによるオンライン開催
内　容：今年度の研究テーマ、研究の方向性や活動予定の確認

第二回　部会
日　時：令和４年１月27日（木）
　　Zoomによるオンライン開催
内　容：２月14日研究授業指導案検討

第三回　部会　兼　部内研究授業
日　時：令和４年２月14日（月）
場　所：新宿区立新宿西戸山中学校
内　容：授業研究
授業者：新宿区立西戸山中学校
　　本田　耕大　教諭
講　師：文教大学　阿野　幸一　先生

出版部報告

（出版部長　今本　由美子）

出版部では、主に「都中英研だより」と「中英研会報」の作成･発行を担当している。今年度も、感染症対策から、部員が一堂に会することが困難であったため、SNSなどを活用し、活動を進めてきた。

また、部員相互での情報交換を日常的に行いながら、自己研鑽に努めた。

具体的な活動状況は以下の通りである。

○「都中英研だより」第75号
（令和３年10月30日発行）

学習指導要領全面実施初年度の今年、先生方に役立つ情報発信となるよう､「Tokyo English Channelの創設について」の他、第45回 関東甲信地区中学校英語教育研究協議会茨城大会案内、中英研各部サマーワークショップ報告、今年度も形式を変更して行うこととなった「令和３年度・第74回英語学芸大会 概要」等を掲載した。

また、紹介した各研究会等のHPを閲覧しやすくするため､各HPのURLと､QRコードを記載するようにした。

○「令和３年度　中英研会報」第80号
（令和４年３月１日発行予定）

都中英研の年間活動や英語教育活動のまとめとして、「東京都の英語教育の充実と発展を目指して」､「学習評価について－評価のポイントと評価方法」､「令和3年度東京都教育委員会の取組」､「東京都教職員研修センターにおける外国語（英語）に関する研修について」､また、英語学芸大会報告、実践研究、各地区の活動状況、中英研事業報告、各部活動報告等を掲載する予定である。

※編集会議や校正作業はリモートでも可能であるが、発送が課題となっている。

第60回大都市公立中学校
英語教育研究会連絡協議会
大阪市・堺市合同大会報告

（総務部長　板垣　繁）

※オンラインによる開催
※令和２年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催されず、２年ぶりの開催となった

１　開催日時

令和３年９月17日（金）
14：00～16：00

２　研究主題

英語教育のICT化 ～１人１台端末などのICT機器をどのように英語教育で活かすのか～

３　参加都市

札幌市／仙台市／新潟市／さいたま市／千葉市／東京都／川崎市／横浜市／相模原市／静岡市／浜松市／名古屋市／京都市／大阪市／堺市／神戸市／岡山市／広島市／北九州市／福岡市／熊本市

４　各都市からの報告

①ICT機器の活用による成果

個別最適化、課題解決の一助となる／評価資料・学習状況の蓄積ができる／生徒の興味をひき出したり、理解を促進したりすることができる／アイデアの共有が簡単にできる／導入やコミュニケーション活動が円滑に進められる／場面設定した言語活動を実施しやすくなった／インフォメーションギャップを簡単に作り出せる／生徒が自分の音読の確認ができ、改善点を意識して練習・録音することができる／ネイティブスピーカーの発音を容易に聴かせることができる／生徒の活動の振り返りが容易になった／映像、音声、ドリル学習など、高品質な教材の提供ができる／教科書テキスト（内容）が実写化され、生徒の興味をひきやすい／デジタル教科書やその他のリスニング教材を活用することで、リスニング力が向上した／生徒にとって教科書のどの部分を行っているのかがわかりやすい／フラッシュカードやピクチャーカードを使用する必要がなくなった／教員の働き方の改善につながる（教材研究等の時間短縮）

②ICT機器を活用する上での課題

不具合が起こったときの対処／機器の不調が多発する／ICT機器の使用に生徒の個人差が見られる／「書くこと」の指導をバランスよく効果的に設定する／書いたり写したりする機会の減少による弊害／紙媒体等とのバランス／英作文の時など、生徒がネットを利用して安易に翻訳を検索する／効果的な言語活動やドリル学習の開発／生徒の学習状況を把握しにくい／効果的な活用について、教員間の意識の差が大きい／ICT機器の使用自体が目的とならないよう、生徒の学習を深めるためのツールであるという本質を見逃さないこと／ICT機器に頼りすぎると、教員自身の指導力の低下につながるおそれがある

５　各都市の研究会に関する情報交換

どの都市も新型コロナウイルス感染症の影響で、参集による研究会・研修会の開催が困難な状況にある。

しかし、コロナ２年目となる今年度は、インターネットのオンラインによる研究会・研修会が積極的に開催されるようになった。

ただし、地域により、インターネット環境に差異があり、開催状況に開きがあることも分かった。

６　次期開催に向けて

次期は神戸市で開催する。開催の方法については未定。

第71回　全国英語教育研究団体連合会総会

全国英語教育研究大会　山形大会
「Explore！未来を切り拓く英語教育の推進
～自ら学び仲間と高め合う授業の創造～」

全英連 副会長
兼 中学部会長　難波　浩明
（足立区立第十四中学校）

1　大会の主題等

令和３年11月19日（金）・20日（土）の２日間、山形県において、第71回全英連総会及び全国英語教育研究大会が開催された。「Explore！未来を切り拓く英語教育の推進～自ら学び仲間と高め合う授業の創造～」を大会コンセプトに、小学校段階から高校卒業段階までを見通した学習と指導の「系統性」に加え、英語の授業における深い学びを実現するための「協働性」と「探求性」の在り方を考える。

2　総会・記念講演

（1）総会
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、総会は、全英連ホームページ上での紙面開催となった。

（2）記念講演
講　師：吉田　研作　先生
（上智大学名誉教授）
テーマ：「日本の英語教育は、金魚鉢から大海に移行できるか」

3　授業発表

（1）小学校授業実演（50分動画）
授業実演者：佐藤　大将　教諭
（山形大学附属小学校）
授業助言者：佐藤　博晴　教授
（山形大学）

＜内容＞

オリンピックのホストタウンの相手国であるサモアの小学生に山形や日本について知ってもらうことをテーマに、総合的な学習の時間等での学習と関連を図りながら、既習の語句や表現を組み合わせて、内容や伝え方を工夫し、自分の考えや気持ちなどを発表していた。活動では、コミュニケーションの目的、場面、状況をみんなで共有し、めあてや用いる表現などをみんなで決めたり、考えたりしていた。

（2）中学校授業実演（50分動画）
授業実演者：門脇　明人　教諭
（東根市立神町中学校）
授業助言者：滝沢　雄一　教授
（金沢大学）

＜内容＞

本時の授業は、NEW CROWN English Series 3 三省堂 Lesson3 I have a dream.の単元の中で、「The greatest person for me～読んだ人が思わず『その人に触れてみたい！』と思うように紹介するには？～」という単元を貫く言語活動を設定し、パラレルリーディングを行ったり、英文や構成を工夫したりしながら、英語で書く活動を展開していた。

（3）高等学校授業実演（50分動画）
授業実演者：山口　和彦　教諭
（山形県立東桜学館高等学校）
授業助言者：和泉　伸一　教授
（上智大学）

＜内容＞

PROMINENCE English Communication Ⅰ東京書籍Lesson7　“What’s an Ig?”の単元の中で、The Japan Timesの記事をベースにした自主教材を読み、日本の競争的研究基金の仕組みと現状を理解し、英語でまとめるとともに、証拠を用いて論理的に聴衆を説得するディベート活動を展開していた。

4　分科会

（1）期　日：11月20日（土）
（2）実施方法：オンライン
（3）分科会数

小学校の部	4	中学校の部	9
高等学校の部	10	連携の部	2

5　今年度の研究大会の特徴

オンラインでの実施を受け、今回の授業実演については、事前に撮影した授業動画を用いての発表となった。小中高、各50分間の発表であったが、その内容については、オンラインの特徴を生かし、本時の学習のみでなく、単元全体の学習過程を示す工夫が見られた。

第45回　関東甲信地区中学校英語教育研究協議会 茨城大会（報告）総会

グローバル社会を生き抜くために必要なコミュニケーション能力の育成
～伝え合う力を育むための段階的な指導等の工夫を通して～

八王子市立松が谷中学校
校長　佐藤　ひろみ

以下は令和３年11月12日（金）に実施された第45回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会　茨城大会の発表に基づいた報告である。

（今大会はコロナ禍の状況を鑑み、Zoomウェビナーでの開催であった。）

１　大会主題設定の理由（概要）

近年、グローバル化の進展等により、日本国内における多文化共生の広がりに伴い、外国語による異文化間コミュニケーションの必要性が求められている。その中にあって、2019年度には新たな在留資格が導入され、さらに多くの外国人の受け入れが予想されている。「グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言」（文部科学省　平成26年10月）によれば、2050年頃の日本は多文化・多言語・多民族の人々が共存し、協調と競争する国際的な環境にあると考えられている。

茨城県英語教育研究部では、こうしたグローバル社会を生徒たちが生き抜いていくために、外国語を話す能力に加え、コミュニケーションを通して、

①相互の多様性を認めること
②考えや思いを伝え、共同して課題を解決すること
③新たな価値を創出する資質や能力の育成を目指すことが求められていると考え、上記の研究主題を設定した。

そして、コミュニケーション能力の育成に向け、授業実践の視点を以下の様に捉え、生徒の育成を図った。

◇「やりとり」や「即興性」を意識した「伝え合う力」の育成に向けた言語活動の実践とその工夫
◇「伝え合う力」の育成に向け、発達段階に応じた、系統的かつ継続的な指導
◇小・中学校における一貫した学習到達目標の設定
◇指導改善に結び付ける段階的な指導及び評価

２　記念講演

演題　「新学習指導要領における指導と評価」
講師　文部科学省 初等中等教育局
情報教育・外国語教育課
外国語教育推進室 教科調査官
山田　誠志　氏

３　公開授業（動画による提案 YouTubeによるストリーミング配信）

第１分科会
授業者　水戸市立緑岡小学校
杉嵜　祐斗　教諭
水戸市立緑岡中学校
川俣　梨恵　教諭
指導助言　ひたちなか市教育委員会
阿部　倫子　指導主事

第２分科会
授業者　水戸市立常盤小学校
相原　麻奈　教諭
指導助言　水戸市総合教育研究所
菅谷　智佳子　指導主事

第３分科会
授業者　水戸市立第一中学校
久保田　奈緒　教諭
指導助言　水戸市総合教育研究所
菅谷　智佳子　指導主事

第４分科会
授業者　水戸市立第四中学校
蓮見　宏明　教諭
指導助言　笠間市教育委員会
遠藤　正英　指導主事

第５分科会
授業者　水戸市立赤塚中学校

綿引　昌子　教諭
指導助言　那珂市教育委員会
久保田　善徳　指導主事

４　分科会テーマ・提案都県（動画による提案 YouTubeによるストリーミング配信）

第１分科会

≪小中連携の実践的な取り組み≫
（千葉県・埼玉県）

【概　要】小・中学校での外国語活動・外国語科の一貫した目標設定、授業スタイルや教材の連携の在り方についての提案及び、学年の発達段階に応じた系統的・継続的なコミュニケーション能力育成のための段階的な指導の在り方についての研究。

【提案者】流山市立南流山中学校
溝井　隆之　教諭
所沢市立安松中学校
山井　葉里子　教諭
つくば市立みどりの学園義務教育学校
吉田　圭介　教諭

第２・３分科会

≪話すこと(発表)の言語活動の工夫≫
（群馬県・栃木県）

【概　要】
小学校：学校や地域等、自分の身近なことについて伝えようとする内容を整理し、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的表現を用いて、相手にわかりやすく話すための言語活動の工夫についての研究。
中学校：日常的・社会的な話題について、簡単な語句や基本的な文を用いて、事実や考え等を整理し、まとまりのある内容を発表するための言語活動の工夫。

【提案者】みどり市立笠懸南中学校
渡辺　智哉　教諭
真岡市立真岡中学校
塚田　邦彦　教諭
芳賀市立芳賀中学校
篠崎　大輔　教諭
常陸太田市立金砂郷中学校
横山　聖　教諭
笠間市立岩間中学校
田口　愛　教諭

第４分科会

≪即興で伝え合う力を育む指導の工夫≫
（長野県・山梨県）

【概　要】自分の思いや気持ちを即興で伝える力を養うために、コミュニケーションを行う目的や状況に応じた場面設定や段階的・系統的な指導の工夫についての研究。

【提案者】高山村立高山中学校
片岡　園子　教諭
市川三郷町立三珠中学校
小林　雄飛　教諭
昭和町立押原中学校
清水　浩平　教諭
常総市立水海道中学校
森　恵　教諭

第５分科会

≪パフォーマンス評価を活かしたコミュニケーション活動の工夫≫
（神奈川県・東京都）

【概　要】実践的なコミュニケーション能力の育成のため、指導と評価を一体化した一貫性・整合性のあるパフォーマンス評価の在り方と工夫についての研究。

【提案者】川崎市立井田中学校
井上　百代　教諭
葛飾区立立石中学校
河野　光志　主幹教諭
神栖市立神栖第一中学校
荒原　聡　教諭

千　代　田　区

神田一橋中学校では、国際交流が中止される中、本校勤務のALT講師出身国であるオーストラリア現地中学生とのオンライン交流を行った。１・２年生の英語授業内で、お互いの紹介や質問など生徒同士が主体的にコミュニケーションをとった。どのクラスも交流後､｢もう一度やりたい｣や｢楽しかった｣など前向きな意見が多く、生徒の意欲的に学習する態度につながった。パフォーマンステストでは、既習文法を使った会話をALTと一対一で行うことにより、学習内容の｢分かった｣からテストでの｢会話ができた｣へとつなげた。

（神田一橋中学校教諭　武井あさひ　記）

中　央　区

Ⅰ．研究主題

「ICTを効果的に活用した指導の工夫」

Ⅱ．研究の経過

◇４月14日

組織作り・研究主題決定・

年間活動計画作成

◇６月23日

スピーキングテスト検討

ALTのスピーキングテストの実践の紹介

◇９月８日　オンライン講演会：

令和時代―大海で使える英語教育

講　師　：上智大学名誉教授・

日本英語検定協会会長

吉田　研作　先生

◇10月13日　第１学年研究授業

授業内容：New Crown 1

Lesson4 My Family, My Hometown

授業者　：石井　夏希　教諭（佃中）

講　師　：東京都教育長指導部指導企画課

国際教育推進担当

統括指導主事

関谷　さやか　先生

◇11月19日　第１学年研究・模範授業

授業内容：New Crown 1

Lesson6 Discover Japan

授業者　：谷口　了太　指導教諭

（銀座中）

◇10月上旬～12月中旬

スピーキングテスト実施

◇１月19日・今年度のまとめ

・来年度の予定について

（銀座中学校指導教諭　谷口了太　記）

港　　区

Ⅰ．研究主題
「学習指導要領全面実施に伴う指導と評価のあり方」
Ⅱ．研究の経過
◇４月21日　組織編制、年間計画立案
◇６月２日　研修会
講　演「New Horizonの効果的な使い方と評価の方法について」
講　師：明石　達彦　先生
（江戸川区立西葛西中学校主任教諭）
◇９月８日　研修会（オンライン実施）
授業研究→中止
指導案検討：第２学年　少人数指導
New Horizon Unit4
助動詞mustを使った活動
講　　演「New Horizonの効果的な使い方と評価の方法について」
主体的に学習に取り組む態度の評価を中心に
講　　師：石鍋　浩　先生
（明海大学　教授）
◇11月10日　港区英語発表会
（オンライン実施）
◇１月12日　研究のまとめ、次年度引継
研究集録「ひびき原稿の確認」
◇２月２日　幼小中合同研究発表会
（高松中学校主任教諭　須佐代志智　記）

新　宿　区

Ⅰ．研究主題
「新学習指導要領の全面実施に向けた指導と授業改善」
①主体的・対話的で深い学びの実践
②具体的なコミュニケーションの目的や場面、状況を設定し、その中でやりとりを行うことを目指した指導
③小・中の連携を深めた連続性のある指導
Ⅱ．研究の経過
◇５月12日　春季一斉部会
組織作り、研究テーマと活動計画決定
◇７月14日　第１回研究授業（オンライン）
授業者　：熊木　美誉　教諭
森　有里　教諭（落合中学校）
授業内容：第３学年NEW HORIZON Unit2 Learning SCIENCE in English
GIGA端末　Share pointにて動画共有
GIGA端末　コメントによる協議
◇８月２日　夏季一斉部会（オンライン）
①情報交換
・スピーキングテストの準備について
・タブレットの活用について
・定期テスト問題交流（評価評定のしかた）について
②講　義「学習指導要領を踏まえた指導と授業改善」
講　師　上智大学　外国語学部　英語学科長
和泉　伸一　教授
◇第37回新宿区中学校英語学芸発表会
スピーチの部・プレイの部→中止
◇10月６日　秋季一斉部会（オンライン）
①・来年度の英語学芸発表会について
・スピーキングテスト　事後反省
・第１回　研究授業　報告
②講　義「学習指導要領を踏まえた指導と授業改善」
講　師　上智大学　外国語学部英語学科長
和泉　伸一　教授
◇第２回、第３回研究授業　→検討中
（新宿中学校　主幹教諭　山崎美砂子　記）

文　京　区

Ⅰ．研究主題
新学習指導要領をふまえた学習評価の在り方（指導と評価の一体化）
Ⅱ．研究の経過
◇４月23日 部長・副部長会議
研究テーマ、活動方針の決定
副部長　中英研幹事の選出
◇５月６日
一斉教科部会（中止）
◇５月23日　研修会（オンライン）
新教科書の構成・指導法について
講　師：桜井　史明　氏
（光村図書出版 英語課）
◇１月13日　一斉教科部会
研修会（会場：第十中学校）
①実践報告「３年『話す・書く』活動の実践」
発表者：石井　亨　主任教諭
（第十中学校）
②デジタル教科書の活用法・指導法
講　師：光村図書デジタル教科書担当
③情報共有

本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、研究授業は実施しなかった。
（本郷台中学校主任教諭　渓内明　記）

台　東　区

Ⅰ．研究主題
「新学習指導要領全面実施における課題と実践」
Ⅱ．研究の経過
◇４月14日　区中研一斉部会
・組織編制、研究主題の決定、年間活動計画　他
◇５月12日　区中研総会　→中止
◇７月７日　研修会
・「評価方法事例研究」
○グループ協議
○事例紹介
講　師：三省堂編集部長
中迫　佑治　氏
・区英語学芸会実施についての検討
◇10月６日 区中研一斉授業　→中止
◇12月１日　講演
・「新学習指導要領全面実施における課題と実践～３観点の評価方法及び場面～」
講　師：東京学芸大学准教授
臼倉　美里　先生
◇１月12日　授業研究
・「ALTと連携した効果的な授業実践」
○ミニ授業「ディベート」
講　師：ボーダーリンク英語講師トレーナー
Mr Chad Grover
鹿川　雅美　氏
○グループ協議
（柏葉中学校副校長　白川智恵子 記）

墨　田　区

Ⅰ．研究主題

「話すこと」の指導と「主体的に取り組む態度」の評価の工夫

Ⅱ．研究の経過

◇４月28日　区中研一斉部会

①組織づくり

②研究テーマ

③年間活動計画の検討

◇６月30日　区中研英語部会研究授業

①授業者：佐々木　伸　主任教諭
柴田　さや香　主任教諭
太田　麗紅　教諭
（桜堤中学校）

単元名：３年 Unit3 Animals on the Red List

②講義及びワークショップ

講　師：関谷　さやか　統括指導主事
（東京都教育庁指導部指導企画課　国際教育推進担当）

◇８月25日　区中研英語部夏季研修会

①評価材料に係る各学校の取組状況

②「話すこと」の指導と評価に関わる講義

講　師：投野　由紀夫　教授
（東京外国語大学　ワールドランゲージセンター　センター長
大学院総合国際学研究院）

◇11月24日　区中研英語部会研究授業

①授業者：安藤　次郎　主任教諭
伊東　浩明　教諭
（文花中学校）

単元名：１年 Let's talk2 体調

②講義

講　師：靜　哲人　教授
（大東文化大学）

③TGG実践報告

報告者：宇田川　珠実　教諭
（吾嬬立花中学校）

◇２月９日　区中研研究発表会

（両国中学校主任教諭　佐藤善明　記）

江　東　区

Ⅰ．研究主題

「ICTを活用した思考力・判断力・表現力を育成する指導の工夫と評価」

Ⅱ．研究の経過

◇６月　区中研教科部会

・研究テーマと組織の決定

・教科交流研究授業の日　動画視聴

深川地区授業者：藤木　敢　主任教諭
（深川第七中学校）

城東地区授業者：中西　優貴　教諭
（南砂中学校）

◇10月29日　江東区英語学芸会

・会場　江東区文化センター

・内容　speech、play、others
都大会出場 play部門
深川第五中学校

◇11月　教科交流研究授業の日　動画視聴

深川地区授業者：中島　淳智　教諭
（深川第三中学校）

城東地区授業者：阿部　紗耶香　教諭
（第二南砂中学校）

◇12月1日　英語部研究授業

水嶋　涼　主任教諭（第四砂町中学校）

指導者助言及び講演

玉川大学教授　日臺　滋之　先生

◇２月　区中研一斉部会

（大島西中学校教諭　高橋若美　記）

品　川　区

Ⅰ．研究主題
「小中連携による英語教育の推進」
Ⅱ．研究の経過
◇５月12日　一斉部会
講　師：アレン　玉井　光江　先生
（青山学院大学教授）
◇６月２日　小中別部会
◇７月７日　一斉部会
講　師：太田　洋　先生
（東京家政大学教授）
◇10月13日　小中実践報告会
内　容：「ICTを活用した英語学習」
◇11月10日　一斉部会
内　容：「７年スタートカリキュラムについての実践研究」
◇12月１日　一斉部会
内　容：ICTを活用した英語学習
◇１月12日　一斉部会
講　師：アレン　玉井　光江　先生
（青山学院大学教授）
内　容：「６年生研究授業～小学校でつけたい英語の力　中学との接続を考えて～」
◇２月９日　研究発表会
講　師：アレン　玉井　光江　先生（予定）
（青山学院大学教授）
（鈴ケ森中学校主任教諭　太田裕也　記）

目　黒　区

Ⅰ．研究主題
「３観点での指導と評価の一体化」
Ⅱ．研究の経過
◇４月21日
研究テーマ、組織の決定
◇５月12日
スピーチコンテストの日程確認
◇７月７日
評価規準・定期考査問題の情報共有
各校のものを持ち寄り、協議
◇10月29日
授業研究【３年生】
授業者：相沢　隆二　　先生
山口　友梨香　先生
大蔵　美涼　　先生
（目黒中央中学校）
◇11月18日
スピーチコンテスト
参加校：区内区立校８校
講　師：菅原　喜一　先生
（英理女子学院高等学校）
◇12月１日
授業研究
中央中での研究授業について協議
◇２月２日
分科会
小学校、中学校での研究の報告
◇３月２日
全体会
今年度の研究の発表
Ⅲ．取組の工夫
◇各校教員の情報共有
区内共通ファイルサーバーを活用し
定期考査問題、スピーチ原稿等を共有
（第七中学校教諭　遠山俊輔　記）

大　田　区

Ⅰ．研究主題
「ICT機器を活用した効果的な指導の工夫」
Ⅱ．研究の経過
◇４月14日　第１回部会（貝塚中学校）
部員自己紹介、組織編成、研究主題、年間活動計画、研究授業者、連合学芸会等
◇７月５日　講演会（蒲田中学校）
演　題：「新学習指導要領を踏まえた指導と評価の一体化」
講　師：本多　敏幸　先生
（千代田区立九段中等教育学校講師）
◇11月５日　連合学芸会（英語の部）
会　場：大田文化の森　大ホール
発　表：スピーチ28名、プレイ２校
◇＜予定＞
２月２日　研究授業（大森第四中学校）
授業者：中野　峻佑　主任教諭
講　師：本多　敏幸　先生
（千代田区立九段中等教育学校講師）
◇引き続き　第２回部会
今年度の総括及び来年度の予定
◆授業改善リーダー
丸山　敬子　主幹教諭（矢口中学校）
川澄　陽子　教諭（大森第六中学校）
森川　俊輔　教諭（志茂田中学校）
◆BULLETIN -OTA English Today-
「紀要」を年間の研究記録として毎年発行している。今年度は第31号である。
Ⅲ．今年度の部員数：103名
（貝塚中学校長　田谷至克　記）

世　田　谷　区

Ⅰ．研究主題
「適正な評価に向けた指導の在り方」
Ⅱ．研究の経過
◇５月12日　世田谷区立中学校教育研究会総会（梅丘中学校）
◇６月２日　前期教育研究会（梅丘中学校）
テーマ：「研究主題について」
◇８月10日　夏期研修会（梅丘中学校）
講演会
「適正な評価に向けた指導の在り方」
講　師　東京外語大学大学院
教授　根岸　雅史　先生
◇11月10日　後期教育研究会
第32回世田谷区立中学校
英語スピーチコンテスト
※事前にビデオ撮影されたスピーチを審査
◇３学期　研究会（未定）
（瀬田中学校主任教諭　関根貴子　記）

渋　谷　区

Ⅰ．研究主題

「授業で主体的に学習に取り組む態度をどのように評価するのか」

Ⅱ．研究の経過

◇５月６日　区中研一斉部会

組織編制、研究主題、研究授業校の決定

◇５月～６月

新学習指導要領に対応した学習評価（中学校外国語）の動画を視聴し、学習評価と言語活動について理解を深める。(各自)

◇５月28日

３観点の評価比重・各観点の評価材料についてのアンケートを実施。(各自)

◇７月30日

「新学習指導要領における望ましい評価について」各校の中間考査問題および評価計画・評価規準を持参し、意見交換。

→新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、各校の中間考査の問題（学年ごと）並びに評価計画・評価規準をTeams上で情報共有。

◇11月２日　研究授業

授業者：長澤　理世　教諭

会　場：渋谷区立笹塚中学校

単元名：NEW HORIZON
English Course2
Unit5 Universal Design

講　師：教育庁指導部義務教育指導課
指導主事　早川　裕之　様

Ⅲ．まとめ

今年度は、新学習指導要領に基づく適切な評価について研究を行った。学習評価の動画の視聴、Teamsでの情報共有、実践事例を含めた講義の受講などを通して、適切な評価についての知識を深めることができた。

（広尾中学校教諭　佐藤恵　記）

中　野　区

Ⅰ．研究主題

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業の工夫～iPadを活用した授業の実践と教材開発～」

Ⅱ．本年度研究実績

◇研究主題の検討と決定（４月）

◇研修会の企画・運営・実施（５～６月）

講　師：開隆堂出版者

内　容：デジタル教科書の活用について

◇研究授業の企画（５～10月）

授業者：市野　剛己　教諭

講　師：熊本大学准教授
岡崎　伸一　先生

◇連合文化発表会企画・実施（９～11月）

日　時：令和３年11月３日（水）

内　容：生徒によるSpeech, Skit発表等

◇紀要作成（11～12月）

◇研究発表会・講演会の企画・実施（２月）

Ⅲ．まとめ

今年度は、iPadが一人一台貸与されており、生徒の「主体的・対話的で深い学び」を引き出す授業を行うために、デジタル教科書の利用等も含めて、いかにして効果的に活用できるかということについて研修を行った。６月の研修会ではデジタル教科書について、10月の研究授業ではiPadについて、具体的な例を示していただきながら、授業実践への効果的な活用を学ぶ有意義な研究会となった。

ICTはあくまで手段である。活用すること自体が目的に据え変わらぬよう、生徒の資質・能力を育む目的に対して、どのように活用していくのが有効か具体的に深めることができた。

（中野中学校教諭　岩井健太　記）

杉　並　区

Ⅰ．研究主題
「新学習指導要領における指導と評価の一体化を目指して」
Ⅱ．研究の経過
◇５月11日　研修会　オンライン実施
講　師　文部科学省
教科調査官　山田　誠志　様
テーマ　「新しい観点による学習評価から指導の在り方を考える～指導と評価の一体化を通して～」
◇８月23日　夏季研修会
講　師　BRITISH COUNCIL
テーマ　1　Setting goals and giving models
2　Level of challenge
3　Feedback
Students to teacher
4　Feedback
Teacher to students
◇２月９日　研究授業
授業者　向陽中学校
鈴木　美帆　主任教諭
講　師　玉川大学文学部英語教育学科
教授　工藤　洋路　様
単元名　New Horizon English Course3
Stage Activity1
My Activity Report
研究主題に関する取組
・自分が経験したことを既習表現で具体的に相手に伝える英文を考える。
・４人のグループワークを通して相手の活動についてより詳しく知るための質問を投げかけける。書く内容を助言しあう。
・様々な情報や意見をもとに自分の考えを再構築し、発展させる。
（東田中学校主幹教諭　大羽美由紀　記）

豊　島　区

Ⅰ．研究主題
「３観点での評価方法の工夫と改善」
Ⅱ．研究の経過
◇区中研
・一斉部会→新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施なし
（各教科部会で個別実施）
・部長・主査会→新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施なし
・役員研究連絡会→新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施なし
◇区中研英語部会
（11月９日・オンライン）
・研究主題の確認と今年度の取組について協議
・各校の情報交換
・来年度の取組内容と担当校の確認
・ALT配置に関して各校の状況をふまえ、来年度の配置方法について区に要望を提出した。
◇各校よりアンケート集約
（１月７日・オンライン）
・評価観点に関するアンケート集約
・各校で実施した定期考査問題を観点別に集約
・各校で検証し実践につなげる
◇活動報告
（３月・データ発表）
（池袋中学校主任教諭　會川こころ　記）

北　　区

Ⅰ．研究主題
「実践的コミュニケーション能力の向上を目指した授業の工夫」
Ⅱ．研究の経過
◇４月21日　北区教育研究会英語・外国語活動研究部中学校分科会
内　容：組織作り、研究目標、活動計画
◇11月５日　連合英語学芸会（英語スピーチの部）
場　所：北区立滝野川会館
参加者：10校10名
最優秀生徒（飛鳥中３年）
◇11月17日　中学校研究授業
授業者：本田　大輔　主任教諭（飛鳥中学校）
対　象：中学校3年
単　元：NEW HORIZON English Course3 Unit5 “A Legacy for Peace”
講　評：北区教育委員会教育振興部教育指導課
北区外国語教育アドバイザー
重松　靖　先生
◇１月12日　北区英語科教員研修会
講　話：「新学習指導要領における中学校英語科の指導と評価の在り方について」
講　師：国立教育政策研究所
教育課程研究センター
研究開発部　教育課程調査官
山田　誠志　先生
◇２月１日　北区英語科教員研修会
講　話：「生徒の英語によるパフォーマンスを高める指導の在り方―『話すこと』を中心に－」
講　師：東京都教育庁指導部
義務教育指導課　指導主事
早川　裕之　先生
（赤羽岩淵中学校教諭　井上志穂　記）

荒　川　区

Ⅰ．研究主題
「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」
～世界につながる荒川の英語教育～
Ⅱ．研究の経過
◇４月14日　組織作り、研究主題決定
◇７月７日
内　容：スピーチコンテスト検討会
講　演：話すこと（発表）の指導
講　評：玉川大学　文学部英語教育学科
教授　工藤　洋路　先生
◇９月15日　研究授業　尾久八幡中学校
授業者：福田　敦子　主幹教諭
対　象：中学２年生
単　元：New Crown 2 Lesson 5 Things to Do in Japan
◇10月28日　区連合英語発表会（英語スピーチの部）
場　所：サンパール荒川
参加者：10校10名
最優秀生徒（第四中３年）
東京都英語学芸大会に参加
◇11月10日　研究授業　第九中学校
指導者：大内　由香里　主任教諭
対　象：中学１年生
単　元：New Crown 1 Lesson 5 School Life in the USA
＊授業は事前にビデオで撮影
◇１月19日　小中合同部会
研究授業：瑞光小学校
授業者　：竹村　祐哉　教諭
対　象　：小学４年生
単　元　：Unit 8 私のとく意なこと（スポーツ・楽器）
講　評　：聖学院大学人文学部
欧米文化学科
教授　東　仁美　先生
（第一中学校教諭　中山翼　記）

板　橋　区

Ⅰ．研究主題

「これからの時代に求められる『話すこと』について、発達段階に応じた指導の工夫」

Ⅱ．研究の経過

◇４月14日　区中研一斉部会　（板二中）

◇６月18日　研究授業

志村一中　石川先生　ビデオ視聴

◇８月20日　夏季ワークショップ→中止

◇11月５日　「英語のつどい」

◇11月10日　区中研英語研修　兼　授業作り実践研修（オンライン開催）

(1) 新学習指導要領における言語活動の在り方

(2) 言語活動におけるALTの効果的な活用方法

講　師：インターナショナル　エジュケーション　サービス
冨田　八枝子　様

◇２月４日　区中研教職員研究発表会

収録原稿執筆校

①板橋第三中

②志村第三中

③上一中

④赤塚第二中

（高島第二中学校主幹教諭　永原佳代子　記）

練　馬　区

Ⅰ．研究主題

「基礎･基本の定着を図り、コミュニケーション能力の基礎を培う。また、本年度から学習指導要領の全面実施に伴い、主体的･対話的で深い学びの実現をめざし、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく育成する授業を実践する。」

Ⅱ．研究の経過

◇５月19日　区中研一斉部会⇒中止

◇６月23日　区中研英語部会
（オンラインで開催）
各ブロック研究授業⇒中止

◇７月30日・８月４日　夏期研修会
（練馬区立生涯学習センター）

＊「新学習指導要領を踏まえた中学校の英語授業作り」

講　師：太田　洋　先生
（東京家政大学　教授）

＊「言葉を教えることは、心を育てること」

講　師：鳥飼　玖美子　先生
（立教大学　名誉教授）

◇10月16日　英語学芸会
（練馬区立生涯学習センター）

都大会出場校：石神井西中
“Midsummer Santa”

◇11月18日　区中研研究授業（中村中）

授業者：三崎　浩介　主幹教諭

講　師：野瀬　博　先生
（杏林大学　講師）

（光が丘第三中学校教諭　相澤雄介　記）

足　立　区

Ⅰ．研究主題

「足立スタンダードに基づく授業づくり
～指導と評価の一体化を目指して～」

Ⅱ．研究の経過

◇４月14日　一斉部会
　　組織及び活動計画案提示

◇６月９日　役員会→中止

◇７月14日　研修会

１．NEW HORIZON English Course 解説
　東京書籍株式会社編集部

２．講演
　講　師：文教大学教授
　　阿野　幸一　先生
　主　題：「新しい教科書を活用した『指導と評価の一体化』について」

◇９月15日　小中合同研修会→中止

◇10月13日　小中合同研修会
　　→中学校研修会に変更
　　ZOOMによる講演会
　講　師：東海大学教授
　　長沼　君主　先生
　主　題：「思考・判断・表現を促し、学びに向かう力を育てる評価の在り方」

◇10月28日　連合英語学芸会→中止

◇12月８日　授業研究会→中止

◇１月26日　一斉部会・講演会
　講　師：文部科学省　初等中等教育局
　　教科調査官
　　山田　誠志　先生
　主　題：「指導と評価の一体化を目指して
　　～学習評価に関する課題を解決するには～」

◇２月９日　役員会
　　次年度の組織・計画立案

（第四中学校主任教諭　上尾栄美子　記）

葛　飾　区

I. 研究主題

「思考力・判断力・表現力」を育む段階的な指導の工夫

II. 研究の経過

◇４月８日　ALT導入全校説明会、割当調整会議

◇10月９日　第36回葛飾区立中学校英語スピーチコンテスト
　　（於：金町地区センター）

※例年は暗唱、プレイ、スピーチ1、スピーチ２の部門があるが、今年度はプレイ部門で１校、スピーチ部門で24名の生徒が参加した。感染症対策として、プレイ部門は事前録画を行いスクリーンでの上映にて発表を行い、スピーチ部門は12名を１グループとして時差召集による分散実施をした。

◇10月13日　葛中研一斉部会

※配信による授業実践発表

授業者：葛飾区立水元中学校
　　太田　湖希　教諭

◇１月29日　葛飾区イングリッシュキャンプ
　（於：TOKYO GLOBAL GATEWAY）

※葛飾区24校から各中学校４名（１年生２名、２年生２名）、計96名が参加。

◇３月　役員会（予定）

（立石中学校主幹教諭　河野光志　記）

江　戸　川　区

Ⅰ．研究主題

「英語を用いて主体的にコミュニケーションを図る資質・能力の育成」

Ⅱ．研究の経過

◇５月11日（火）　総会・役員会→中止

◇６月９日（水）　区中研一斉部会

講演会　「教科書『SUNSHINE』の活用法とデジタル教科書について」

講　師：長柴　宏幸　様

（開隆堂出版　営業部課長）

於：小岩第四中学校

◇夏季研修会→中止

◇２月９日（水）　区中研一斉部会

講演会　「新学習指導要領における評価について（仮）」

講　師：山田　誠志　様

（文部科学省　初等中等教育局
教育課程課　教科調査官
情報教育・外国語教育課
教科調査官
国立教育政策研究所
教育課程研究センター
研究開発部　教育課程調査官）

→予定

（小岩第四中学校長　鈴木訓文　記）

八　王　子　市

Ⅰ．研究主題

「新学習指導要領に対応した授業作り及び学習評価」

Ⅱ．研究の経過

◇５月13日　役員会
　　主題設定、組織、
　　活動計画確認

◇１学期　師範授業→中止

◇夏季研修会　スキルアップ研修会
授業力・英語力のブラッシュアップ
「ネイティブ講師による英語力のブラッシュアップ」（演習）→中止

◇２学期　研究授業→中止

◇11月10日　一斉部会（第五中）
講演会「新教育課程における英語の指導と評価」
講　師：工藤　洋路　教授
（玉川大学　文学部英語教育学科）
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ONLINE開催
（各校からの参加者は代表１名とし、その他の教員は自校での視聴）

◇２月15日　２・３年次対象模範授業
授業者：日下部　善哉　主幹教諭
（松が谷中）

（第五中学校副校長　小島幸子　記）

立　　川　　市

Ⅰ．研究主題

「社会の変化に対応し，学び続ける生徒の育成を目指して」

Ⅱ．研究の経過

◇５月12日　運営委員会
　　全体会
　　研究部会→中止

◇８月23日　第１回研究部会
・情報交換、意見交換、課題解決
※「主体的に学習に取り組む態度」に関わる指導や評価、１学期の指導を終えての疑問や課題

◇10月６日　第２回研究部会
講師：文教大学国際学部
教授　阿野　幸一　先生
講演：「教科書を活用した指導と３観点の評価について」

◇２月９日　研究発表会→中止

（立川第八中学校主幹教諭　木下泰孝　記）

武　蔵　野　市

Ⅰ．研究主題

「新学習指導要領全面実施における小中連携」

Ⅱ．研究の経過

◇５月12日　活動計画・研究主題検討

◇９月９日　小中部会（講演）

講　師：森田　剛　先生

（東京都教育庁指導部

義務教育指導課　統括指導主事）

講　演　「指導と評価の一体化に向けて」

◇10月13日　授業研究　第四小学校

講　師：山本　恵美子　先生

（英語教育推進アドバイザー）

講　演　「児童が主体的にコミュニケーションを図ろうとする授業づくり」

◇11月10日　小中部会（講演）

講　師：窪田　香　先生

（東京都教育庁指導部

主任指導主事）

講　演　「東京都の進める国際教育事業」

◇１月19日　授業研究　第六中学校

Ⅲ．成果と課題

今年度から中学校でも新学習指導要領全面実施が始まることを受けて、昨年度と同じ研究主題で講演会や授業研究を通して研究を深めることができた。今後中学校では、小学校４年間で合計210時間もの英語を触れて入学してくる生徒を指導するために、小学校での学習内容を把握し、そこからつなげていく指導がより必要となる。日頃からの言語活動を充実させ、指導と評価の一体化について情報を共有し合い、指導内容を考えていくことが課題である。

（第五中学校主任教諭　坪田千尋　記）

三　鷹　市

Ⅰ．研究主題

「発達段階に応じたコミュニケーション能力の育成～ICTを活用した指導方法の工夫～」

Ⅱ．研究の経過

◇４月14日　組織決めと年間活動計画

◇５月12日　講演会

◇６月９日　小・中合同研究授業

→オンラインで実施

単元名：Unit2 Club Activities

授業者：広瀬　朱音　教諭

（第二中学校）

◇９月８日　小・中合同研修

→オンラインで実施

インタラックによるワークショップ

テーマ：「授業実践活動例」

講　師：Chase Inoue　先生

Mike Uzemeck　先生

◇10月６日　小・中合同研究授業

→オンラインで実施

単元名：Unit5 He is famous. She is great. ～世界で活躍する人～

授業者：大越　由梨　教諭

（第二小学校）

◇１月12日　高山小学校にてワールドカフェ形式による協議会

講　師：三鷹市立高山小学校長

吉村　達之　先生

◇２月９日　今年度の研究のまとめ

（第四中学校主任教諭　櫻井永里子　記）

青　梅　市

Ⅰ．研究主題
「新しい学習評価に基づいた指導方法と授業の工夫」
Ⅱ．研究の経過
◇５月12日　中教研全体会・部会
→新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。各校で当日の資料を配布。
◇８月27日　研究部会
→新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。
◇10月27日　一斉研究授業を実施。
内　容：東京書籍
Unit4
「Be Prepared and Work Together」
分詞の後置修飾を扱いタブレットと大型スクリーンを活用した授業。
講　師：東京福祉大学特任教授
大野　容義　先生
授業者：青梅市立第六中学校
笹川　眞帆子　主任教諭
形　態：各校１名は授業実施教室で参観。それ以外の教員は別室でオンライン配信を視聴。
講　評：文法に偏らないコミュニケーション中心の授業を念頭に入れた模擬授業を各自が考え、実演する活動を実施した。インタビュー形式で実施し、教師役・生徒役に分かれてロールプレイを行った。
＊11月以降の予定はなし。
（第六中学校副校長　佐藤正和　記）

府　中　市

Ⅰ．研究主題
「実践的な指導力の向上」
Ⅱ．研究の経過及び内容
◇４月14日　部員総会
自己紹介・研究主題・年間研究計画等
◇５月12日　研究部会→中止
◇８月４日　研究部会→中止
◇９月８日　研究授業→中止
◇10月13日　ワークショップ
「教科書（含む電子教科書）の特徴・効果的な利用方法について」
講　師：光村図書　久松　雅美　様
◇11月10日　講義
「新学習指導要領に基づく『指導と評価の一体化』」
講　師：東京都教育庁指導部義務教育指導課統括指導主事
森田　剛　先生
◇１月12日　研究授業
授業者：第八中学校　教諭　戸嶋　優大
講　師：東京都教育庁指導部義務教育指導課指導主事
早川　裕之　先生
◇２月２日　研究発表会
◇３月９日　役員の引継ぎ
（府中第一中学校教諭　塚越喜美枝　記）

昭　島　市

Ⅰ．研究主題

「新学習指導要領を踏まえた生徒の主体性を引き出すための授業改善」

Ⅱ．活動報告

◇５月12日　教科部会

◇９月11日　「未来をひらく発表会」にてスピーチコンテスト

◇10月６日　研究授業→中止

◇１月19日　教科部会

Ⅲ．取組の工夫

生徒の主体性を引き出す工夫として以下のことを行った。

◇振り返りシートの活用

生徒自身が現在の自分の学習状態を把握し、次回の取組に生かすことができるように、振り返りシートを活用した「振り返り」の時間を設けた。

授業の終わり、単元終了後、考査終了後などに振り返りの時間を設定し、自分の理解度や課題点を改めて把握したり、自分自身の新たな目標を設定したりすることにより、意欲的に取り組む生徒が多く見られるようになり、生徒の主体性を引き出すきっかけとなった。

◇パフォーマンステストにおける工夫

教科書の内容を中心とした話す活動や読む活動、各単元の学習内容（文法）を用いたパフォーマンステストなどを行った。

既習事項を実際の運用に結び付けることが重要であると捉え、生徒が学習した文法事項を運用レベルまで高めることができるように段階的・個別的に指導した結果、それぞれの習熟度に応じて意欲的に取り組む生徒が増えてきた。

プレゼンテーションを行うにあたり、タブレットを活用して情報の検索や原稿づくりに役立てたり、プレゼンテーションソフトを使い、発表の準備をするなど、ICTを活用し、取組を充実させ、生徒の主体性を引き出すための指導の工夫改善を行った。

（昭和中学校教諭　作田由起子　記）

調　布　市

Ⅰ．研究主題

「新学習指導要領における３観点での評価方法と主体的な学びのためのICTを活用した授業作成」

Ⅱ．研究の過程

◇５月12日　第１回研究部会

・研究主題設定・組織作り

・年間活動計画

・新学習指導要領における各校の取組について情報共有

・Google Meetにて実施

◇６月２日　第２回研究部会

内　容：講演、協議

講　師：岡﨑　伸一　先生（熊本大学大学院）

講　演：「新学習指導要領における評価方法やICTを活用した主体的な学びのある授業」Zoomにて中継

◇10月６日　第３回研究部会

内　容：研究授業、講演、協議

授業者：川邉　耕太　主任教諭

内　容：Lesson 4 The World's Manga and Anime NEW CROWN English Series 3

（研究授業は、事前に録画したものを授業者が解説しながら観察を行った。）

講　師：北原　延晃　先生（上智大学）

講　演：「新学習指導要領における評価」Zoom および Google Meet にて中継

◇１月　紙上発表

（第三中学校教諭　青山光希　記）

町　田　市

Ⅰ．研究主題

「Here We Go！を活用した指導と評価」

Ⅱ．研究の過程

◇４月14日　第一回一斉部会

→Google Meetにて実施

内　容　：組織作り
研究主題の設定
年間活動計画

◇10月27日　第二回一斉部会

内　容　：研究授業・オンライングループ協議・講演
→Google Meetにて授業を中継し、オンラインで協議会を行い、指導・助言をいただいた

会　場　：町田市立小山中学校およびGoogle Meetの併用

授業者　：神田　隆夫　教諭

授業内容：Here We Go！
English Course3　Unit5
Plastic Waste

講　　演：「Here We Go！を活用した指導と評価」

講　　師：太田　洋　先生
（東京家政大学　教授）

◇１月26日　第三回一斉部会

内　容　：研究授業・グループ協議・講演

会　場　：町田市立鶴川中学校

授業者　：遠藤　貴裕　教諭

内　容　：Here We Go！
English Course2　Unit7
Amazing Australia

講　演　：「新学習指導要領の指導と評価」
→試験問題を持ち寄り、グループ協議を行い、指導・助言をいただいた

講　師　：本多　敏幸　先生
（千代田区立九段中等教育学校講師・都留文科大学非常勤講師・文教大学非常勤講師）

（真光寺中学校教諭　森沢俊彦　記）

小　金　井　市

Ⅰ．研究主題

「思考･判断･表現」の観点に焦点を置き、新評価規準の理解を深める

Ⅱ．研究の経過

◇６月５日　研修会

講　師　：栄藤　辰久　教諭

内　容　：新評価規準の「知識・技能」と「思考・判断・表現」の違いについて

※上記内容について、講師本人が東京教師道場内での学びとその後の授業実践を基に還元研修を行った。

◇10月６日　授業研究会

授業者　：栄藤　辰久　教諭

会　場　：小金井市立東中学校

題　材　：Listen 3「空港のアナウンス」

協議内容：「思考・判断・表現」の評価規準と評価基準について

◇11月10日　授業研究会

授業者　：木村　大樹　教諭

会　場　：小金井市立小金井第二中学校

単　元　：Lesson 5
「Things to Do in Japan」

協議内容：該当単元における「思考・判断・表現」を評価する活動について

◇１月19日　授業研究会

授業者　：栄藤　辰久　教諭

会　場　：小金井市立東中学校

題　材　：Listen 6「プレゼントの相談」

◇２月３日　研究発表会
（動画視聴［予定］）

（東中学校教諭　栄藤辰久　記）

小　平　市

Ⅰ．研究主題

「主体的に学習に取り組む態度の効果的な評価方法について」

Ⅱ．研究の経過

◇４月21日　教科等研究会総会
第１回英語部会
組織づくり
研究主題の設定
研究計画の作成

◇７月27日　夏季研修会
（小平第四中学校）
講　師：本田　敏幸　先生
（千代田区立九段中等教育学校）
講　演：新学習指導要領における観点別評価のあり方
内　容：・学習評価の基礎知識
・評定までの手順
①学年ごとの目標設定
②年間指導計画の作成
③評価規準の設定
④授業（指導）
⑤評価
⑥総括

◇９月８日　教科等研究会→中止

（小平第四中学校主任教諭　藤川洋　記）

日　野　市

Ⅰ．研究主題

「即興の発話を促す授業作り」
～主体的な学びを促す評価のあり方～

Ⅱ．研究の経過

◇５月12日　中教研総会：組織作り

◇６月21日　研究授業①
授業者：佐藤　真雄　主任教諭
（日野第二中）
対　象：中学３年生（少人数クラス）
HWG3 U3 Part3『Kotaのレポート』
目　標〔英文を読み自分の考えを伝える〕
講　師：東京家政大学教授
太田　洋　先生

◇７月14日　研究授業②
授業者：寺田　侑加　教諭（三沢中）
対　象：中学１年生（少人数クラス）
HWG1 U3Part3『Kotaの意外な特技は』
目　標〔主語、動詞を色ペンで識別させ、新出文法の文構造の理解を図る〕

◇９月１日　研究授業③小中連携研究
授業者：宮﨑　太樹　主任教諭
（日野第一中）
対　象：中学１年生（少人数クラス）
HWG1 U4Part1『どんな先生がいるかな』
※新型ウィルス感染拡大の影響で中止

◇10月６日　研究授業④小中連携授業
授業者：洞口　早希　教諭（日野第八小）
対象：小学５年生（40人学級）
ONE WORLD Smiles5 Lesson6『行ってみたい都道府県を伝えよう』
目　標〔社会科の学習を生かし、行ってみたい都道府県とその理由を伝え合う〕
講　師：東京都教職員研修センター
池田　武男　先生

Ⅲ．成果と課題

様々な制約がある中で、４回の研究授業が実施できた。第４回は初のオンライン研究会であり、中学校の改訂された教科書を扱う上で、小学校での指導と児童の習熟度を知る良い機会となった。「小中９年間を見越した指導と評価」という視点を共有し、より一層の連携を図っていく必要がある。

（日野第二中学校主任教諭　佐藤真雄　記）

東　村　山　市

Ⅰ．研究主題

「新学習指導要領における評価と実践」

Ⅱ．研究の経過

◇５月12日　統一部会
（東村山第四中学校）

◇６月９日　三省堂　新教科書説明
（東村山第六中学校）

◇７月７日　講演会『新学習指導要領における評価』
講　師：東京学芸大学
臼倉　美里　先生
（東村山第六中学校）

◇９月８日　実践交流（東村山第六中学校）

◇10月14日　会計会（東村山第四中学校）

◇11月10日　実践交流（東村山第六中学校）

◇１月12日　実践交流（東村山第六中学校）

◇２月14日　研究授業（東村山第二中学校）

◇３月２日　今年度のまとめ、次年度の計画（東村山第六中学校）

（東村山第六中学校主任教諭　松山伸子　記）

国　分　寺　市

Ⅰ．研究主題

「指導と評価一体化」のための新しい観点による学習評価について～主体的に学習に取り組む態度を中心に～

Ⅱ．研究の経過

◇４月14日　一斉部会

◇６月２日　講演会（zoom）
講　師　武蔵野市立第五中学校
校長　刀根　武史　先生

◇10月６日　研究授業（teams）
授業者　第三中学校　渡邉　早瑛　先生
講　評　国分寺市教育アドバイザー
重松　靖　先生

◇１月12日　一斉部会予定
研究のまとめ

講演会では，新しい観点別評価について研修をした。研究授業は予め録画したものを見て、オンラインで意見交換をした。

（第三中学校主任教諭　三瀬章裕　記）

国　立　市

Ⅰ．研究主題

「学習活動における児童・生徒の主体的な態度や姿を見取るための評価について―設定した評価場面における見取りの工夫―」

Ⅱ．研究の過程

◇５月26日

全体会及び部会（組織編成・主題設定）

※オンラインによる

◇６月23日

部会（部会体制確認・研究主題、授業者検討）

◇７月21日

部会（研究内容確認・役割分担）

◇９月１日

部会（10月公開授業指導案検討）

◇10月20日

研究授業　研究協議　指導・講評

授業者　：国立第八小学校
石原　元気　教諭
山田　悦子　ALT

講　師　：玉川大学大学院教育学研究科（教職専攻）名誉教授
佐藤　久美子　先生

◇11月10日

公開授業（他教科・他領域参観）

◇１月19日

研究授業の振り返り・研究紀要作成協議

（国立第一中学校教諭　兼近優歩　記）

福　生　市

Ⅰ．研究主題

「ICTを活用するとともにコミュニケーションの目的・場面・状況の設定を工夫した授業の展開」

「新学習指導要領を意識し、見方・考え方を働かせた学びの実践」

Ⅱ．研究の経過

◇４月14日

役員選出部会

研究取組の方向性の設定

年間計画作成

◇８月25日

（午前）　福教研英語科研修会

講　師：東京都立両国高等学校附属中学校
壽原　友里子　先生

（午後）　中学校英語科指導法研修会

◇10月５日

研究授業：福生第三中学校

授業者　：藤原　陽子　主任教諭

内　容　：NEW HORIZON　English Course 2　Unit4 “Homestay in the United States.”

（福生第一中学校主任教諭　山本美穂　記）

狛　江　市

Ⅰ．研究主題
「対話力を重視した実践的な学びを目指して」
Ⅱ．研究の経過
◇４月　年間計画の作成
　　研究主題設定、組織作り
◇７月　運営委員会
　　共通研究課題、活動の確認
　　部長会
　　研究主題、研究授業校、
　　年間活動計画、
　　会計事務の確認
◇９月　研究授業・協議会・研修会
　会　場：狛江第三中学校
　授業者：髙山　るり子　教諭
　対　象：１年C組
　単　元：Here We Go
　　English Course 1
　　Unit4
　　Our New Friends
　講　師：太田　洋　先生
　　（東京家政大学教授）
◇11月　運営委員会
　・活動状況及び予算執行状況等の報告
　・部長会
　・研究・活動報告書の作成について
　・報告会の内容、来年度中教研日程
◇２月　研究活動報告会
Ⅲ．オンラインスピーキングトレーニング
　（株）ベネッセコーポレーションによる
　オンライン英会話体験学習
　全校実施
　　（狛江第四中学校教諭　西尾祐子　記）

東　大　和　市

Ⅰ．研究主題
「新学習指導要領に基づいた指導の実際と今後必要とされる工夫・改善」
Ⅱ．研究の経過
◇８月　部会
　オンラインで実施
◇10月　部会
　オンラインで実施
◇11月　部会
　講　師：東京学芸大学教育学部准教授
　　臼倉　美里　先生
　講　演：「Getページの使い方の工夫や習熟度に差があるクラスでの工夫について」
◇２月３日
　研究発表　⇒　紙上発表で実施
　（東大和第四中学校教諭　平瀬亮子　記）

清　瀬　市

Ⅰ．研究主題

「新学習指導要領を踏まえた、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり　～技能領域を焦点化した指導の工夫を通して～」

Ⅱ．研究の経過

◇４月14日 教育研究会

会　場：清瀬第二中学校

内　容：研究主題の設定、年間活動計画の作成、情報交換

◇６月23日 教育研究会

会　場：清瀬第二中学校

内　容：新学習指導要領における評価・評定についての講義

担　当：東井　靖展　主任教諭（清瀬第二中学校）

◇10月27日　授業研究会→縮小実施

授業者：東井　靖展　主任教諭（清瀬第二中学校）

※授業はビデオで事前に撮影

内　容：Unit 6 “A Speech about My Brother”
NEW HORIZON English Course 1

①授業者から「聞くこと」に焦点化した単元指導の解説

②指導目標・指導内容・評価の整合性を図る授業づくりについて協議

③主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりについて協議

（清瀬第二中学校主任教諭　東井靖展　記）

東 久 留 米 市

Ⅰ．研究主題

「やる気が出る！自ら学ぶ！力が伸びる！　～指導と評価の一体化を目指した指導方法の改善」

Ⅱ．研究の経過

◇６月30日　市授業改善研

研究主題・情報交換

◇９月８日　研究授業

大門中学校２年生

授業者：加藤　広太郎　教諭

講　師：昭島市立瑞雲中学校副校長　阿部　啓介　様

◇10月13日　研究授業

南中学校３年生

授業者：藤城　麻結　教諭

講　師：元多摩市立諏訪中学校長　宮寺　清　様

◇２月９日　市授業改善研

研究報告（オンライン発表）

（中央中学校主幹教諭　三田村規子　記）

武蔵村山市

Ⅰ．研究主題
「新学習指導要領における評価について」
Ⅱ．研究の経過
◇４月21日　中教研第１回部会
・研究主題設定
・組織編成
・年間計画
◇10月27日　中教研第２回部会
研修会
講　師：柏市教育委員会 学校教育部
指導課　蜂巣　桂　先生
テーマ：「新学習指導要領における評価（『思考・判断・表現』、『主体的に学習に取り組む態度』）」
◇２月９日　中教研第３回部会
研究授業及び協議会
武蔵村山市立第五中学校１年生
授業者：福島　久哲　教諭
単元名：NEW HORIZON 1
Stage Activity2『My Hero』
・好きな有名人やあこがれの人についてたずねたり、説明したりすることができる。
（武蔵村山第五中学校教諭　鈴木拓真　記）

多　摩　市

Ⅰ．研究主題
「新学習指導要領のもとでの『指導と評価の一体化』～評価・評定の具体的な方法～」
Ⅱ．研究の経過
◇６月２日　多摩市中教研一斉部会
場　所：多摩市立多摩中学校
内　容：①『Here We Go！』
デジタル教科書の使い方
②各校の評価方法の情報交換
◇10月26日　小・中学校英語教育研修
場　所：多摩市立教育センター
内　容：デジタル教科書活用についての実践紹介
報告者：多摩第一小学校
西澤　昴志　教諭
多摩中学校
廣澤　一恵　主任教諭
◇11月10日　多摩市中教研一斉部会
場　所：多摩市立多摩中学校
内　容：評価・評定の実際
①各校の評価方法の情報交換
②講演
「使える英語力」の育成を目標とした授業の組み立てかた
講　師：国分寺市立第一中学校
主任教諭　相沢　秀和　先生
◇３学期　誌面発表（予定）
（多摩中学校主任教諭　廣澤一恵　記）

稲　城　市

Ⅰ．研究主題

「主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童・生徒の育成」

Ⅱ．研究の過程

◇４月14日　一斉部会

場　所：平尾小学校

内　容：研究主題の決定と年間活動計画の作成

◇５月12日　事前授業研修

場　所：各自所属校

内　容：研究授業で活用できる事例を提出

◇６月９日　実技研修（(株）ハートコーポレーションによる）

場　所：各自所属校（Google meet）

内　容：①児童生徒が主体的に取り組むために担当教員がT1としてできるポイント

②自ら英語を使おうとするモデルになるために

③ALTの活用について

◇８月25日　講演

場　所：平尾小学校（Google meet）

内　容：効果的な教科書の活用と評価について（三省堂書による）

◇９月15日　自主研修

場　所：各自所属校

◇10月13日　授業実践報告

場　所：稲城第五中学校

内　容：小学校部　指導案検討

中学校部　実践報告を受けての意見交流

◇11月10日　研究授業、協議会

場　所：稲城第三小学校

内　容：第六学年「Try 買い物」

小林　稜典　先生

◇１月19日　研究のまとめ

場　所：平尾小学校

◇２月16日　研究発表会

場　所：平尾小学校

（稲城第二中学校教諭　髙橋知佳子　記）

羽村市・西多摩市

Ⅰ．研究主題

「タブレットを活用し生徒の意欲をさらに引き出す指導法の工夫」

Ⅱ．研究の経過

今年度、11月１日(月)本校、柴原達也教諭の研究授業を実施した。上記を研究主題とし、①端末機器の活用は、英語表現活動の活性化に効果的か、②新学習指導要領に即した授業展開となっているか、の二点を「研究ポイント」(授業の見取りのポイント・協議会で話し合いたいこと）と指導案に明記した上で、実際に授業を行った。

講師には東大和市立第二中学校校長の岩崎　浩示様をお迎えし、ご指導・ご助言を頂き、さらに「関心・意欲を高め表現力を向上させるための指導の工夫―リプロダクションの指導を例に―」という演題で講義も賜った。

ほぼ全会員が参集し、授業後の協議会も大変有意義な形で行うことができた。

Ⅲ．成果と課題

コロナ禍の影響により、思うような研究活動が行えなかった点は甚だ残念ではあるが、それでも昨年度に比べれば活動自体は再開でき、研究授業・研究協議はリモートなどではなく、通常通り会員が一堂に会し対面形式で実施できたことは、まず大きな進歩であり、さらに若手が一人一台端末を活用して果敢に授業を展開したことは成果と言えるだろう。

今後もOJT、教科内のミーティングを頻繁に丁寧に持ち、授業力向上を目指したい。

（羽村第一中学校主幹教諭　山中洋介　記）

あきる野市

Ⅰ．研究主題

(1) コミュニケーションの目的・場面・状況などを意識した表現活動の充実

(2) ３観点の評価を意識した授業づくり

Ⅱ．研究の経過

◇６月２日（水）市中教研英語部会

会　場　：東中学校

活動内容：１ 三役決定

２ 今年度の研究主題決定

３ 一斉授業研究会の予定

◇10月６日（水）市中教研一斉部会

会　場　：東中学校

活動内容：１ 令和４年１月19日の研究授業に向けて

２ 評価・評定について

３ タブレット端末の利用について

４ 今後の予定について

５ 教科書について

◇１月19日（水）研究授業

会　場　：秋多中学校

授業者　：梁瀬　光晴　教諭

授業内容：１年Unit9 Read & Think

講　師　：あきる野市立秋多中学校

副校長　板山　寛久 先生

◇２月16日（水）研究発表会

・研究発表中止（紙面発表）

◇授業力向上研修会・研修中止

Ⅲ．成果と課題

英語部会で、各校の評価方法について情報を交換、共有し、研究主題を深めた。東中では全学年で、生徒がタブレットを活用しながら、英語で発表できた。

次年度、都立入試で導入されるスピーキングテストに向けて、各校と情報を共有しながら、準備を進めていく。

（東中学校主幹教諭　和久利幸子　記）

西東京市

Ⅰ．研究主題

「コミュニケーション活動のさらなる充実～新学習指導要領及び小中一貫教育の実施のもと～」

Ⅱ．研究の経過

◇５月20日　西東京市中学校教育研究会

会　場：田無第一中学校

組織作り

研究主題および年間活動計画検討

◇11月10日　西東京市中学校教育研究会

会　場：明保中学校

①研究授業

授業者：山尾　萌子　教諭

単元名：New Horizon English Course 3 Unit5 A Legacy for Peace

②研究協議

③情報交換

Ⅲ.成果と課題

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、録画した授業を視聴する形での研究授業を行った。コミュニケーション活動のさらなる充実に向けて、よりよい学習活動について授業視聴及び授業協議を通して意見を交換し合った。コミュニカティブな帯活動の実践、生徒同士の学習活動、指導計画や評価方法など様々な意見を交換し、研究を行った。

しかし、本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため小中が連携した活動及び協議会を開くことができなかった。来年度は研究の活動が制限された中でも、小中連携についても研究を進めていきたい。

（田無第二中学校主幹教諭　星雄介　記）

大　島　町

Ⅰ．研究テーマ

「新学習指導要領実施に伴う評価の研究」

Ⅱ．活動内容

◇５月19日　研究協議（指導法について）（一中）

◇10月13日　小学校授業ビデオ研究（一中）

◇11月24日　研究協議（指導と評価の一体化）（一中）

◇１月19日　研究のまとめ（一中）

Ⅲ．成果と課題

(1) 成果

・新学習指導要領実施に伴い変更された評価についての話の共有ができた。

・小学校の授業のビデオを研究して、今後の小中の連携について見通しをもつことができた。

・今年度はコロナ禍のため、研究授業の実施を見送った。来年度は実施したい。

(2) 課題

・小中連携を効果的に進めるために、中学校の教員が各小学校各学年の英語の授業についてよく知る必要がある。

・新学習指導要領の目標を達成するための活動（帯活動等）の時間配分など、全体のバランスを考えながら授業計画を行う必要がある。

・評価の中でも特に、「学びに向かう力、人間性等」の評価について考える必要がある。

（第二中学校教諭　井上悦子　記）

八　丈　町

Ⅰ．研究主題

「コミュニケーション能力を活用できる児童・生徒の育成」

～発達段階に応じた指導の工夫～

Ⅱ．活動の経過

◇５月12日　第１回部会

研究主題、活動計画、組織作り、研究授業担当地区決め、物品購入検討

◇10月　英検IBAテスト実施

◇11月17日　第２回部会

①研究授業

会　場：三根小学校

対　象：第３学年

授業者：若井　美咲　教諭

Christopher Stempel ALT

②協議

③情報交換

◇１月19日　第３回部会

①研究授業

会　場：三原小学校

対　象：第３学年

授業者：中原　久美　主任教諭

Tyler Martin ALT

②協議

③年度末反省・まとめ

④情報交換

（三原中学校主任教諭　土居由起子　記）

令和３年度

中英研事業報告

※印はオンライン

1　４月26日　役員会※
①役員組織等の確認
②年間事業計画の検討
③中英研定期総会に向けて
④役員会の日程について
⑤関ブロ等諸大会について他

2　５月11日から６月４日まで
定期総会　資料を地区幹事宛に発送し、ファクシミリにて承認を図った。
①令和２年度事業報告・決算報告
②令和２年度会計監査報告
③新役員の承認
④３年度行動目標の承認
⑤年度事業計画・予算の承認

3　６月21日　事業部　役員会
於：八王子市立第六中学校

4　６月25日
関ブロ茨城大会第１回理事研修会※

5　６月30日、８月26日、９月７日、10月４日、10月６日　出版部
「都中英研だより」編集会議※

6　７月１日　役員会※
各部の事業報告他

7　７月６日　事業部　部会
於：東京都教職員研修センター

8　７月30日　調査部　問題検討会※
８月19日　ワークショップ打合わせ※
８月20日　ワークショップ※

9　８月３日、８月５日　研究部
ワークショップ※

10　８月20日　プロジェクトチーム部　部会※
研究テーマ、方向性について

11　９月17日
第60回大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会　大阪市・堺市合同大会※

12　10月４日　役員会※
英語学芸大会の運営について他

13　10月19日　出版部
「都中英研だより」発送

14　10月20日から11月20日まで　事業部
第74回英語学芸大会※

15　11月11日
関ブロ茨城大会第２回理事研修会※

16　11月25日、12月１日
　　１月24日、２月７日　出版部
　　「中英研会報」編集会議※

17　12月6日　役員会※
　　各部の事業報告他

18　１月18日
　　令和３年度東京都教職員研修センター
　　教育課題研究発表会展示発表

19　１月27日　プロジェクトチーム部　部会※
　　研究授業指導案の検討

20　２月10日　事業部
　　第36回授業力アップ研修会※

21　２月14日　プロジェクトチーム部　部会※
　　研究授業を基にした考察とまとめ

22　２月21日　研究部　研究発表※

23　２月22日　役員会※
　　①令和３年度の成果と課題
　　②令和４年度中英研の運営他

24　３月１日　出版部
　　「中英研会報」発送

（総務部長　板垣　繁 記）

東京都中学校英語教育研究会会則

第１章　総　　則

第１条　本会は東京都中学校英語教育研究会と称する。
第２条　本会の事務所は会長指定の経理部長在籍校の所在地に置く。
第３条　本会は東京都中学校の英語教育関係者を会員とする。

第２章　目的及び事業

第４条　本会は中学校英語教育に関する事項を研究し、会員の識見の向上に努めると共に、英語教育の振興を図ることを目的とする。
第５条　本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
１．各種研修会の開催（研修会、発表会、講演会等）
２．調査活動（コミュニケーションテストの作成とその分析、調査活動等）
３．研究活動（英語教育に関わる基礎的かつ実践的な課題等）
４．各種英語教育団体との連絡
５．機関誌発行、本会の目的達成に必要な事業

第３章　役員及び幹事

第６条　本会には次の役員および幹事をおく。
１．会長１名
２．副会長若干名
３．部長各部ごと１名
４．副部長各部ごと若干名
５．会計監査２～３名
６．幹事各区、市ごとに１名
第７条　役員の選出は次のとおりとする。
１．会長・副会長は役員会の推薦により、総会の承認を得なければならない。
２．部長・副部長は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
３．会計監査は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
第８条　役員の任務は次のとおりとする。
１．会長は本会を代表し、会務を総括する。
２．副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行すると共に、各部を分担する。
３．部長は担当副会長と協議の上、部会を招集し、会務を執行する。
４．幹事は本部と各地区との連絡にあたる。
５．事務局は総務部が担当し、事務局長は総務部長があたる。
６．会計監査は会計の監査を行い、その結果を総会に報告する。

第９条　役員の任期は１年とする。ただし再任を妨げない。
第10条　本会に相談役、参与及び顧問をおくことができる。
１．相談役はＯＢ会長及び副会長より、参与は現職校長より役員会の推薦により会長が委嘱する。
２．顧問は英語科出身の指導主事より会長が委嘱する。

第４章　会　　議

第11条　会議は次のとおりとする。
１．総　会
毎年１回会長が招集し、会務の報告、役員の人事、予算、決算等を審議し、決定する。ただし、必要がある場合は臨時に開くことができる。
２．役員会
会長・副会長・部長をもって構成し、必要に応じて副部長・会計監査を加え、会長の諮問機関とする。
３．幹事会
役員・幹事をもって構成し、学期１回以上例会を開き、会務を執行する。
４．部　会
［総務部］庶務・会計・渉外及び他部に属さない事項の処理
［事業部］会の年間計画・英語学芸会・研修会、その他会長より委嘱された事業の立案・計画・推進
［調査部］コミュニケーションテスト及び英語教育に関する調査の実施
［研究部］語彙指導などの研究活動とその普及のための広報活動、研究発表会および公開授業の開催
［出版部］中英研だより・会報などの発行
［プロジェクト・チーム部］英語教育に関わる今日的かつ実践的な課題についての研究の推進

第５章　会　　計

第12条　本会の会費は東京都中学校教育研究会よりの交付金をもってあてる。
第13条　本会の経費は会費およびその他の収入による。
第14条　本会の予算・決算は総会の承認を得なければならない。
第15条　本会の会計年度は毎年４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。

第６章　付　　則

第16条　本会則は昭和60年４月１日より実施する。
第17条　本会則の変更は総会の承認を得なければならない。
第18条　細則は幹事会で定めることができる。

※改定 第５条２、３及び第11条４は平成17年５月19日より実施する。
※第２条及び第16条は平成30年５月10日より実施する。

令和３年度　東京都中学校英語教育研究会役員名簿

役　名	氏　　名	所　　属　　校
会　　長	刀　根　武　史	武蔵野市立　第　五　中　学　校
副　会　長	遠　藤　哲　也	葛　飾　区　立　水　元　中　学　校
〃	佐　藤　ひろみ	八王子市立　松　が　谷　中　学　校
〃	平　岡　栄　一	葛　飾　区　立　亀　有　中　学　校
〃	難　波　浩　明	足　立　区　立　第　十　四　中　学　校
〃	田　谷　至　克	大　田　区　立　貝　塚　中　学　校
〃	柳　　歓　子	大　田　区　立　雪　谷　中　学　校
〃	今　本　由美子	立　川　市　立　立　川　第　三　中　学　校
〃	佐　藤　順　一	墨　田　区　立　吾　嬬　立　花　中　学　校
〃	大　森　　博	八王子市立　第　一　中　学　校
〃	横　山　達　也	八王子市立　第　六　中　学　校
担当副会長 兼総務部長	板　垣　　繁	葛　飾　区　立　金　町　中　学　校
経理部長	佐　藤　ひろみ	八王子市立　松　が　谷　中　学　校
副　部　長	星　　正　行	足　立　区　立　入　谷　南　中　学　校
〃	小　林　和　代	葛　飾　区　立　水　元　中　学　校
〃	赤　田　洋　一	江　東　区　立　大　島　中　学　校
〃	米　岡　利　昌	葛　飾　区　立　水　元　中　学　校
〃	池　田　美　咲	葛　飾　区　立　水　元　中　学　校
〃	平　入　　聡	葛　飾　区　立　金　町　中　学　校
担当副会長	大　森　　博	八王子市立　第　一　中　学　校
調査部長	荒　川　高　広	千代田区立　九段中等教育学校
副　部　長	市　川　拓　治	福　生　市　立　福　生　第　二　中　学　校
〃	高　瀬　ひとみ	東　京　都　立　白鷗高等学校・附属中学校
〃	加　藤　真由子	調　布　市　立　第　五　中　学　校
部　　員	相　澤　雄　介	練　馬　区　立　光が丘第三中学校
〃	安　部　智　秀	練　馬　区　立　大　泉　中　学　校
〃	飯　島　美　樹	江　東　区　立　深　川　第　二　中　学　校
〃	遠　藤　康　子	小　平　市　立　小　平　第　二　中　学　校
〃	大木田　陽　子	文　京　区　立　茗　台　中　学　校
〃	大　澤　陽　子	世田谷区立　駒　沢　中　学　校
〃	大　竹　希依子	中　野　区　立　明　和　中　学　校
〃	上　水　謙　治	小　平　市　立　小　平　第　五　中　学　校
〃	榧　野　真　弓	中　野　区　立　第　二　中　学　校
〃	木　村　弘　恵	品　川　区　立　浜　川　中　学　校
〃	久保田　　航	墨　田　区　立　墨　田　中　学　校

役　名	氏　　名	所　　属　　校
部　　員	黄　　俐　嘉	世田谷区立緑　丘　中　学　校
〃	小　山　寛　孝	町　田　市　立　南　　中　　学　　校
〃	斎　藤　　基	日　野　市　立　日　野　第　三　中　学　校
〃	佐　藤　　航	八王子市立　打　越　中　学　校
〃	白　井　靖　子	江　東　区　立　深　川　第　八　中　学　校
〃	柴　野　泰　行	江　東　区　立　第　二　砂　町　中　学　校
〃	島　﨑　さやか	八王子市立　第　一　中　学　校
〃	鈴　木　美　帆	杉　並　区　立　向　陽　中　学　校
〃	高　橋　翔　太	多　摩　市　立　諏　訪　中　学　校
〃	田　所　　毅	羽　村　市　立　羽　村　第　一　中　学　校
〃	丹　生　幸　宣	小　平　市　立　上　水　中　学　校
〃	坪　内　英津子	八王子市立　四　谷　中　学　校
〃	永　井　　剛	武蔵野市立　第　一　中　学　校
〃	幡　野　洋　子	日　野　市　立　大　坂　上　中　学　校
〃	樋　口　はる菜	国　立　市　立　国　立　第　一　中　学　校
〃	星　　雄　介	西東京市立　田　無　第　二　中　学　校
〃	前　田　秋　輔	東　京　都　立　桜修館中等教育学校
〃	松　村　祐　輔	江戸川区立　松　江　第　五　中　学　校
〃	丸　山　敬　子	大　田　区　立　矢　口　中　学　校
〃	宮　﨑　太　樹	日　野　市　立　日　野　第　一　中　学　校
〃	山　下　郁　子	日　野　市　立　大　坂　上　中　学　校
担当副会長	平　岡　栄　一	葛　飾　区　立　亀　有　中　学　校
事業部長	横　山　達　也	八王子市立　第　六　中　学　校
副　部　長	稲　葉　高　広	町　田　市　立　鶴　川　中　学　校
〃	前　川　卓　哉	国分寺市立　第　五　中　学　校
〃	大　屋　　剛	江　東　区　立　南　砂　中　学　校
〃	小　山　千　景	葛　飾　区　立　双　葉　中　学　校
部　　員	相　沢　隆　二	目　黒　区　立　目　黒　中　央　中　学　校
〃	宮　野　和　子	府　中　市　立　浅　間　中　学　校
〃	大　竹　希依子	中　野　区　立　明　和　中　学　校
〃	亀　田　洋　斉	千代田区立　九段中等教育学校
〃	川　越　智　子	北　区　立　飛　鳥　中　学　校
〃	石　井　　誠	渋　谷　区　立　松　濤　中　学　校
〃	才　丸　　光	渋　谷　区　立　上　原　中　学　校
〃	小　川　史　哲	八王子市立　別　所　中　学　校
〃	宮　内　　瞭	八王子市立　陵　南　中　学　校

役　名	氏　　名	所　　属　　校
部　　員	山　内　正　治	八王子市立川　口　中　学　校
〃	黄　　俐　嘉	世田谷区立緑　丘　中　学　校
〃	川　澄　陽　子	大　田　区　立　大　森　第　六　中　学　校
〃	河　野　真由子	東　京　都　立　武　蔵　高　等　学　校
〃	遠　藤　貴　裕	町　田　市　立　鶴　川　中　学　校
担当副会長	田　谷　至　克	大　田　区　立　貝　塚　中　学　校
研究部長	渓　内　　明	文　京　区　立　本　郷　台　中　学　校
副　部　長	前　田　宏　美	港　　区　立　港　南　中　学　校
〃	太　田　裕　也	品　川　区　立　鈴　ヶ　森　中　学　校
〃	高　杉　達　也	東　京　都　立　小石川中等教育学校
〃	橋　本　晋　作	渋　谷　区　立　松　濤　中　学　校
部　　員	伊地知　義　信	豊　島　区　立　千　登　世　橋　中　学　校
〃	原　田　博　子	文　京　区　立　第　十　中　学　校
〃	中　川　智　子	大　田　区　立　志　茂　田　中　学　校
〃	水　嶋　　諒	江　東　区　立　第　四　砂　町　中　学　校
〃	三　上　健二郎	大　田　区　立　出　雲　中　学　校
〃	森　沢　俊　彦	町　田　市　立　真　行　寺　中　学　校
〃	島　田　　拓	足　立　区　立　入　谷　南　中　学　校
〃	松　尾　麻里恵	葛　飾　区　立　水　元　中　学　校
〃	大　島　良　一	江戸川区立　篠　崎　第　二　中　学　校
〃	多　田　　翔	葛　飾　区　立　桜　道　中　学　校
〃	福　島　恵　子	豊　島　区　立　西　巣　鴨　中　学　校
〃	一ノ瀬　麻　子	港　　区　立　六　本　木　中　学　校
〃	能　美　真　弓	荒　川　区　立　第　三　中　学　校
〃	岡　　大　佑	足　立　区　立　江　南　中　学　校
〃	長谷川　眞　司	江　東　区　立　砂　町　中　学　校
〃	川　邉　真梨子	武蔵野市立　第　三　中　学　校
〃	柴　田　さや香	墨　田　区　立　桜　堤　中　学　校
担当副会長 兼出版部長	今　本　由美子	立　川　市　立　立　川　第　三　中　学　校
副　部　長	溝　口　千　里	板　橋　区　立　高　島　第　二　中　学　校
〃	當　麻　忠　幸	西東京市立　ひばりが丘中学校
部　　員	兼　子　容　子	葛　飾　区　立　上　平　井　中　学　校
〃	相　澤　史　彦	練　馬　区　立　八　坂　中　学　校
〃	中　井　正　弘	小　平　市　立　小　平　第　一　中　学　校
〃	福　田　貴　音	豊　島　区　立　西　池　袋　中　学　校
〃	鈴　木　咲　子	清　瀬　市　立　清　瀬　第　二　中　学　校

役　名	氏　　名	所　　属　　校
部　　員	柳　　絵　未	千代田区立 九段中等教育学校
〃	岩　田　　歩	調布市立 第五中学校
〃	辻　　賢　哲	青ヶ島村立 青ヶ島中学校
〃	深　山　朋　子	新宿区立 新宿西戸山中学校
〃	祖母井　千　秋	江東区立 大島西中学校
〃	浅　田　紗　織	青梅市立 西中学校
〃	和　田　圭　史	羽村市立 羽村第三中学校
ＰＴ部長	佐　藤　順　一	墨田区立 吾嬬立花中学校
部　　員	小　林　博　子	豊島区立 明豊中学校
〃	原　田　博　子	文京区立 第十中学校
〃	上　尾　栄美子	足立区立 第四中学校
〃	角　田　幸　彦	足立区立 入谷中学校
〃	堀　　恭　子	西東京市立 田無第三中学校
〃	渡　邊　英　哲	稲城市立 稲城第四中学校
〃	飯　沼　美千代	練馬区立 大泉中学校
〃	田　中　佳　奈	連雀学園三鷹市立 第一中学校
〃	川　戸　萌　美	連雀学園三鷹市立 第一中学校
〃	本　田　耕　大	新宿区立 新宿西戸山中学校
〃	佐　藤　善　明	墨田区立 両国中学校
〃	西　田　　桐	墨田区立 両国中学校
〃	伊　勢　　涼	葛飾区立 双葉中学校
〃	渡　邊　良　亮	世田谷区立 喜多見中学校
〃	村　山　幸　広	江戸川区立 二之江中学校
小中連携	吉　村　達　之	三鷹の森学園三鷹市立 高山小学校
〃	柳　　歓　子	大田区立 雪谷中学校
会計監査	竹　内　康　裕	八王子市立 第五中学校
〃	小　島　幸　子	八王子市立 第五中学校
〃	渡　邉　和　彦	八王子市立 打越中学校

あ　と　が　き

ここに、令和３年度「中英研会報」第80号をお届けいたします。

本誌の発行に際しましては、東京家政大学　教授　太田　洋　先生をはじめ、多くのご執筆者の皆様にご協力いただきましたことに、心から御礼申し上げます。

また、「地区活動状況」ページの作成にあたりましては、各地区幹事の先生方には、ご多用の中、原稿の提出にご協力いただきありがとうございました。

感染拡大の波の中、先の見通しも立てづらく、各地区、ご苦労されていることと思います。今年度も多くの取組が計画変更を余儀なくされてきました。一方で、オンラインの活用は進み、新しい形での研修が、多く行われるようにもなってきました。まだまだ、このような日々は続くかもしれませんが、今、目の前にいる生徒たちのためにも、私たちは、その時々で、知恵を絞り、できることをできる形で進めていくことが肝要と感じています。

そして、この会報が、都内各中学校の英語科教員の情報共有の場となり、英語科教員相互の連携、都の中学校英語教育の一層の充実、発展のお役に立てればと願っております。

最後になりましたが、本誌の発行にあたり、ご支援を賜りました多くの先生方に感謝いたしますとともに、会員の皆様の一層のご活躍をお祈りいたします。

（都中英研出版部長　　今本　由美子）

都中英研　HP・Facebook の URL と QR コード

都中英研 HP では、各部の活動や研修会等のお知らせがご覧いただけます。本誌「都中英研会報」の閲覧も可能です。また、Facebook では、利用者間相互のコミュニケーションも可能です。ぜひご活用ください。

http://www.chueiken-tokyo.org/

https://www.facebook.com/chueiken.tokyo/

都中英研 HP　　Facebook

※Facebookはフェイスブック株式会社の登録商標です。

都中英研会報　第８０号

令和４年３月１日印刷
令和４年３月１日発行

発　行　者　東京都中学校英語教育研究会
代表者　刀根　武史

発　行　所　東京都中学校英語教育研究会
東京都武蔵野市立第五中学校
東京都武蔵野市関前２－10－20
ＴＥＬ(0422)52-0421

印　刷　所　（株）オフィス・サンライズ
東京都大田区鵜の木２- ６- ５
ＴＥＬ(03) 5741-3146